



第28期日本ロシア学生交流会

第14回関東本部主催訪日企画

第18回関東本部主催訪ロ企画

関東本部報告書

目次

序

挨拶	5
関東本部幹事長	5
上智大学上野俊彦教授	7
日本ロシア学生交流会の概要	9
交流都市紹介	14
関東本部について	16
今回の企画に協力して下さった方々	18

第一部 第14回関東本部主催訪日企画 19

第一章 企画概要	20
企画内容	21
プログラム日程	22
参加者一覧	24
会計報告	28

第二章	ディスカッション／文化紹介	30
第三章	滞在記録	46
第四章	全体感想	57
第二部	第 18 回関東本部主催訪口企画	73
第一章	企画概要	74
	企画内容	75
	プログラム日程	76
	参加者一覧	78
	会計報告	80
第二章	滞在記録	81
第三章	全体感想	90

序

挨拶

日本ロシア学生交流会関東本部幹事長

上智大学 2年 萩原崇之

我々日本ロシア学生交流会は 27 年前の 1988 年に発足し、それ以来学生という比較的
自由な立場を活かし、柔軟かつ多様な交流活動を行ってきました。その中心企画は夏季休暇中
に行われるロシア人学生を日本に招待する訪日企画、及び日本人学生をロシアへと送り現
地での交流を図る訪ロ企画の 2 つです。今年は 6 名のロシア人をノヴォシビルスクより受
け入れ、8 名の日本人をリャザンへと送り企画を成功、安全に終わることができました。ま
ずはこの 2 つの企画を支えてくださった会員の方々、助成金など様々な面で支援してくだ
さった全ての方に感謝申し上げます。

日本とロシアの関係のイメージは決して良くありません。長く続く北方領土問題や 2014
年のウクライナ危機、なんとなく暗そうなのではという思い込みがその原因でしょう。その
ような状況で活動を続けていく中で、「どうしてロシアなんていう国と交流しようとするの
か」「理解ができない」という意見をもらったこともあります。このような現状は非常な残
念です。しかし先代の報告書の引用になりますが、一時の混乱や単純なイメージで物事を判
断してしまうのはマイナスでしかありません。日ロでの活動ではロシアに関して非常に多
くのことを学ぶことができます。実際に現地に赴きロシア人のリアルな生活や文化を体験
し、ロシア人を日本に受け入れ案内することで日本のことについてもう一度学び直すこと
ができるのは非常に貴重な経験です。ホームステイや散策、ディスカッション、外部団体
によるセミナーや勉強会、OB・OG の方の留学体験記を聞くなど学生たちにとって魅力的な
機会が溢れています。このような企画を経ることでロシアへの単純なイメージや偏見
はなくなり、より正しい目でロシアと日本について知ることができます。加えて学生とい
うなんの利害関係もない中で交流することでロシアやロシア人のことを好きになるとい
うことも利点でしょう。このように若いうちから築いた信頼は一生ものです。その関係はたと
え小規模の物でも必ず両国の明るい未来に繋がるものだと信じています。

本交流会は自分たちが交流して満足するだけでなく、イベントを自分たちで企画し責任
を持って遂行するというところに大きな意味があると個人的に思います。その中で一番大切
なのは人と人との関わり合いです。日本人にもロシア人にもお互いに長い間本会流会を通
して築き上げた素晴らしい信頼関係があります。これも歴代日ロの先輩方の努力のおかげ
です。これからも築き上げてきたものを崩さずに、更なる日ロ関係の発展の為に次の代の皆
さんが精進してくれることを願います。最後に本交流会の企画を支えてくださった財団の

皆様、ホームステイを快く受け入れてくださった皆様を含め、その他この 1 年間活動に関わって下さった全ての皆様に感謝申し上げます。

日ロ間の正式な外交関係が開かれた 1855 年 2 月 7 日の日魯通好条約の締結から、2015 年で 160 年になる。日ロ学生交流会の歴史はそれに比べればはるかに短い。活動している学生一人ひとりに着目すれば、実際の活動期間はわずか数年のことだ。2014 年以降の日ロ関係やロシアの経済情勢は、2013 年までに比べると良好とは言えない。その原因は、対ロ制裁や原油価格の低下だ。だから、2014 年以降にロシアに関心を持ち始めた学生は、日ロ関係やロシアの経済情勢はあまりよくないと感じているかも知れない。

しかし、この 160 年を振り返ると、日ロ関係はよかったときもあるし、悪かったときもある。開国交渉のため日本に寄港していた軍艦ディアナ号は、1854 年 11 月、津波により大破し、伊豆沖で沈没した。プチャーチン提督率いる使節団・水兵たち 500 名ほどが西伊豆の戸田（へだ）に逗留し、船大工の協力により代船を建造したことはよく知られた友好のエピソードだ。ロシア帝国最後の皇帝ニコライ二世がまだ皇太子だった 1891 年春、父皇帝の名代として来日し、観光を楽しんだエピソードもある。不幸にも警備の警官に切りつけられる大津事件が起きたが、それにもかかわらず皇太子ニコライは日本に対する悪感情は持たず、皇太子を見舞う品々が日本全国から山のように届いたという。しかし、日清戦争後、日ロ関係は急速に悪化し、1904 年に日露戦争が勃発した。ところが、日露戦争後、ロシアは日本を東アジアにおけるパートナーとして選択し、日露協約を締結、ロシア帝国崩壊まで日ロ関係はおおむね良好で、事実上の軍事同盟にまで至っている。だが、帝政を打倒したソ連政権を日本政府は強く警戒し、ソ連を敵視するドイツと同盟関係を結び、1939 年と 1945 年には日ソ間で短い戦争が戦われた。第 2 次世界大戦後の日本は、ソ連と対立する米国との同盟を選択し、冷戦期からソ連崩壊後を通じて、日ロ平和条約を締結できないまま今日に至っている。もっとも、第 2 次世界大戦後の日ソ・日ロ関係が一様に悪かったわけではなく、1970 年代以降、日本の対ソ輸出は増加し、1990 年代のソ連解体前後のソ連・ロシアの経済混乱期を除けば、日ソ・日ロの経済関係はおおむね順調だった。この間、日ソ関係が極端に悪化したのは、1979 年末のソ連軍のアフガニスタン侵攻の時期で、1980 年のモスクワ五輪への参加を日本はボイコットさえしている。この年が、1974 年にロシア語を学び始めた私が記憶する日ソ・日ロ関係最悪の時期だ。実は、ソ連時代の元首級の訪日は 1991 年 4 月のゴルバチョフ・ソ連大統領訪日しかない。皇帝の名代だったニコライ皇太子訪日以来、100 年ぶりのことだ。それに比べれば、エリツィン大統領もプーチン大統領も訪日は複数回に及ぶ。

これからも日ロ関係の歴史は続く。悪いときもよいときもあるだろう。しかし、互いを知り、理解することは、波風に打ち勝つ、固い絆をつくることになる。日ロ学生交流会の役割

は、この日ロ関係の固い絆をつくるための相互理解だ。これからも、日ロ学生交流会の活発な活動に期待したい。

日本ロシア学生交流会の概要

1989年、ソ連を含む東欧諸国は激動の年であり、ソ連への渡航もままならない時代のなかソ連に赴き、現地で同世代の学生たちと直接ひざを付き合わせて語り合おうと考えた学生有志がいた。彼らは同年6月、当会の前身となる「日ソ学生交流会」を設立した。当時はソ連に関する正確な報道も少なく、また絶対的な情報量が不足していたが、その状況下で得られる僅かな情報を元に毎週のように「ソ連とは、新生ロシアとは何か」と熱い議論が交わされていた。

当初2年間はモスクワを訪問し、とにかく現地の学生との対話をしようという意気込みの元に活動していたが、時勢はソ連・ロシア激動の時代であり、交流先を見つけることすら困難だった。そんな中、財団からの助成金がいったん打ち切れ、やむなく自費でモスクワへの渡航が2度実施された。格安航空券の無いこの時代に、“学生が自費で”渡航するのに必要な資金集めに際しては、想像を絶する苦労があった。

1994年、そのような厳しい状況が続く中、会員のカンパによって第1回訪日企画が敢行され、モスクワから1名の学生を招待することができた。

翌年1995年は、苦しい時代を経て、当会にとって大きな転機の年になった。新たに西部シベリア地域最大の都市にして、ロシア第三の都市、ノヴォシビルスク市の学生との定期的な交流事業が開始される運びとなったのである。ノヴォシビルスクには日本語を教えている高等教育機関が複数あるが、当時、当会では主に同市を代表する学問の府であるノヴォシビルスク国立大学の東洋学部との交流を継続的に実施した。ここで、ノヴォシビルスクと当会の交友関係にいたるいきさつも大変興味深く特筆に値する。1995年当時に当会の顧問を務めてくださった和田氏と、フロロヴァ女史との出会いである。

和田氏は長年に渡る金融マンとしての職業人生を引退された後、精力的にロシアの方々の大学を回っては日本語学習の指導をなさっていた。また、ご本人自ら多くの在日ロシア人留学生の身元保証人として活動されるなど、日ロ両国の架け橋になろうとご尽力なされた方でもあった。

あるとき同氏がノヴォシビルスクを訪ねた折、当時日本との交流が皆無に近かった同地で日本語を教えている教授がいると知り、大変に驚かれたのが全ての始まりとなる。フロロヴァ女史は幼少時代にソ連邦成立直後中国東北部へ亡命し、「満州国」に成り代わった同地の日本人学校に入学し、高等女子学校まで日本語による教育を受け、フルシチョフ時代のソ連に帰国して大学で教鞭をとった。フロロヴァ女史の半生には常に戦争がついてまわった。一方、和田氏がロシアに関心をもったのは、第二次世界大戦で強力な軍事力を誇ったソ連に鮮烈な印象を抱いていたからである。こうして和田氏とフロロヴァ女史は、戦争の記憶という共通項で結ばれ、たちまち意気投合し、両氏が仲立ちとなって日ロ間学生交流の芽を育もうということで見解の一致を見た。当時フロロヴァ女史の勤務していたノヴォシビルスク

国立大学に日ロの姉妹サークルとして「東洋クラブ」が結成され、万全の受け入れ態勢が整ったところで第1回ノヴォシビルスク訪問事業が実行された。それまで一貫してきた「ホーム・メイド」の交流活動をモットーとして継続し、当会の活動を重ねた。築地の魚市場を訪れ、市場関係者に突撃インタビューを試みたり、レンタカーを借りて富士山に登ったりと、バリエーションと新鮮さに富んだ活動だった。このころ同時に、日本の家庭を知ってもらうことを目的としたホームステイ事業が本格的に始まった。

1996、97年は春先、桜の蕾がほころぶころに訪日企画を実施し、思い出作りには絶好の企画となった。訪日企画に際し、現地ではロシア側と「財団の助成金に関する覚書」に署名・調印を行うなど、組織としての関係強化について協議が重ねられた。また、失敗に終わったとはいえ、ロシア極東地域はブリヤート共和国にあるウラン・ウデ国立大学との交流開始を模索した年でもあった。

1998年からは、それまで2期に渡って同年中に行なっていた訪日・訪日事業について、おもに財政的理由からそれぞれ隔年開催とすることに決定した。当時の基本的な方針としては訪日、訪日事業を隔年開催にするかわりに、1回ごとの交流事業の規模を拡大して、ロシア側との間にこれまでと同等の交流密度を維持していくこととなった。その具体的な表れとして、当会会員の実家に向く「地方企画」など新企画が次々と打ち出された時期だった。訪日事業においても同様の路線がとられた。

1999年、新しい試みとしてモスクワ再訪問を行い現地の学生（プレハーノフ記念経済大学内の国際学生交流サークルであるIAESTEのメンバー）と交流再開となって実を結ぶこととなった。

2001年の夏より、モスクワ郊外の街リャザンとの交流が開始された。ノヴォシビルスクとの交流も現地メンバーが大きく入れ替わり、さらに活動は充実した。

2009年、本会は前身の日ソ学生交流会時代も含め、20周年を迎えた。20年間、当会からは、長峯誠都城市市長をはじめとして、広く社会で活躍する人材を多数輩出しているが、それは日本だけに留まらない。2001年前後に日ロプログラムに参加したリリヤ・モルチャノワさんは現在、日ロのリャザン提携先であるリャザン国立大学アジア諸国言語学科長を務めている。また、ノヴォシビルスクで協力を得ているシベリア北海道文化センターにおいては、当会OBのマキシムさん、OGのリュドミーラさん等が勤務している。

2011年の春には嘗てから望んでいた関西本部を設立。大阪大学・神戸市外国語大学の学生を主な会員としており、現在メンバーは20名程。8月にはリャザンから4名を関西に招く訪日活動を10日間の規模で行なった。同時に訪日企画も行なった為、1997年を最後に途絶えていた訪日企画・訪日企画の同時開催を果たす運びとなった。

2012年は、関東関西2本部体制の中で4都市間同時交流という新しい試みを始めた。関東からノヴォシビルスクへ、関西からリャザンへ、また、ノヴォシビルスクから関西へ、リャザンから関東へ、と2つずつの訪日企画・訪日企画が実施された。それぞれの期間は2週間弱とやや短い、日ロの歴史において新たな一歩踏み出した。

2013 年は、3月に『日ロ学生シンポジウム』を行った。外部の方々を招いての斬新かつ大規模な企画を皮切りに、外務省主催の北方四島学生交流企画への参加など、多岐に渡って活動が実施されてきた。新会員を迎え関東部だけでも50人にまで膨らみ、日ロは量、質ともに飛躍的に発展を遂げる年となった。

昨年2014年では新たな試みとして、東大での出店を行いロシア料理のペリメニを販売した。日ロの活動を知ってもらうのと同時にロシアのことを一般の人に知ってもらうきっかけとなった。

そして今年度の2015年。新会員の人数も約60人になった。またこれまでの主な参加大学である東京大学、東京外国語大学、上智大学に加えて、慶応大学、国際基督教大学、東京理科大学などの参加大学が増えた。日ロの会員数が増えたことにより、外務省主催の北方四島交流企画や訪日企画の参加者多数により活気のあるものとなった。

これまでの主な活動

1989年6月	日ソ学生交流会結成
1990年8月	第1回訪ソ企画…日本人13名モスクワへ派遣
1992年8月	第2回訪ソ企画…日本人13名モスクワへ派遣
1993年7,8月	第3回訪ロ企画…人数不明モスクワ・極東へ派遣
1994年	第4回訪ロ企画…人数不明モスクワ・極東へ派遣 第1回訪日企画…ロシア人1名モスクワから招致
1995年8,9月	第5回訪ロ企画…日本人7名イルクーツク・ノヴォシビルスクへ派遣
1996年3月	第2回訪日企画…ロシア人学生8名・教師1名ノヴォシビルスクから招致
8,9月	第6回訪ロ企画…日本人10名 イルクーツク・ノヴォシビルスクへ派遣
1997年3月	第3回訪日企画…ロシア人10名 ノヴォシビルスクから招致
8,9月	第7回訪ロ企画…日本人8名 ノヴォシビルスクへ派遣
1998年8月	第4回訪日企画…ロシア人10名 ノヴォシビルスクから招致
1999年8,9月	第8回訪ロ企画…日本人16名 モスクワ・ノヴォシビルスクへ派遣
2000年8月	第5回訪日企画…ロシア人9名ノヴォシビルスクから招致
2001年8月	第9回訪ロ企画…日本人10名ノヴォシビルスク・リャザンへ派遣
2002年8月	第6回訪日企画…ロシア人12名ノヴォシビルスク(7名)・リャザン(5名)から招致
2003年8月	第10回訪ロ企画…日本人13名ノヴォシビルスク・リャザンへ派遣
2004年8月	第7回訪日企画…ロシア人9名ノヴォシビルスク(6名)・リャザン(3名)から招致
2005年8月	第11回訪ロ企画…日本人10名ノヴォシビルスク・リャザンへ派遣
2006年8月	第8回訪日企画…ロシア人14名ノヴォシビルスク(5名)・リャザン(9名)から招致
2007年8月	第12回訪ロ企画…日本人7名ノヴォシビルスク・リャザンへ派遣
2008年8月	第9回訪日企画…ロシア人13名ノヴォシビルスク(3名)・リャザン(10名)から招致
2009年8月	第13回訪ロ企画…日本人12名ノヴォシビルスク・リャザンへ派遣
2010年8月	第10回訪日企画…ロシア人14名ノヴォシビルスク(7名)・リャザン(7名)から招致
2011年5月	日本ロシア学生交流会関西本部発足
2011年8月	第14回訪ロ企画…日本人14名ノヴォシビルスク・リャザンへ派遣
2012年8月	第11回訪日企画…ロシア人10名リャザンから招致 第15回訪ロ企画…日本人5名ノヴォシビルスクへ派遣
2013年8月	第12回訪日企画…ロシア人8名ノヴォシビルスクから招致 第16回訪ロ企画…日本人10名リャザンへ派遣
2014年8月	第13回訪日企画…ロシア人9名リャザンから招致 第17回訪ロ企画…日本人10名ノヴォシビルスクへ派遣

2015年8月	第14回訪日企画...ロシア人6名ノヴォシビルスクから招致 第18回訪日企画...日本人8名リヤザンへ派遣
---------	--

交流都市紹介

リヤザン/Рязань

リヤザンはモスクワから南東へおよそ 200 キロ、特急で 3 時間・バスで 4 時間ほどの利便性の高い歴史ある都市で、面積は東京 23 区の 3 分の 1 ほどの 224 平方キロメートル、人口は東京都杉並区と同等の約 50 万人である。オカ河の右岸に位置する。

今回交流した都市のリヤザンはリヤザン州の州都で、条件反射で有名な生理学者パヴロフや詩人のイェセーニンの出身地としても知られている。町には彼らの生家博物館があり、19 世紀ロシアの生活を垣間見ることができる。リヤザン市内には至るところにキノコの像があり、町のマスコットの存在になっているようである。約 1000 年の歴史を誇るリヤザンクレムリンは町の象徴で、クレムリンまでの道中、観光客目当ての乗馬体験・土産物の露店が軒を連ねていた。リヤザンは軍の町としても知られており、市内の中心部の至るところに軍の病院、学校、博物館など多岐にわたる軍用建造物があった。行政機関・劇場・大学・さらに一般の店が入る建物は日本のものとは全く異なる外観で、宮殿を思い起こさせるようなものであった。パステルカラーを中心としたそれらの建物は雪の日に特にその美しさが映えると思う。

市内の移動は主にバス・トロリーバス・マルシュルートウカと言われる乗り合いワゴン車を中心となっている。運賃は先払いでおおよそ 20 ルーブル。運賃と引き換えに貰える切符には 3 桁の数字が 2 つ印字されていて、2 つの数字の合計が等しければその日は幸せでいられるという迷信があるようだ。日本のバスのように下車ボタンは無く、いわゆるバスガールのような人が集金にやってくる。交通量が多いためか、歩行者用の青信号が異常に短く、走って渡らなければならないところが印象的だった。

リヤザン州内にはダーチャが軒を連ねていて、市内から 1 時間ほど車で走ると自然にあふれた美しい風景が広がっている。空気も澄んでいて街灯もない。今年はリンゴが豊作で、園内には無数の熟れたリンゴが転がっていた。気を付けないと上から落ちてきたリンゴで怪我をしてしまいそうだ。ロシアでは果物はほとんど皮ごと食べる。リンゴはもちろん、梨やブドウ、桃に至るまで種ごと食べるのが一般的だ。ダーチャには伝統的なバーニャといわれる風呂、ピーチカという暖炉がある。

東京というコンクリートジャングルで過ごしている私たちにとって、リヤザンで見えるものの全てが新鮮に感じられた。出会った人々の温かさ、美しい風景はずっと私たちの心に残り続けるであろう。

ノヴォシビルスク/Новосибирск

ノヴォシビルスクは、オビ川に沿うロシアの地理的中心都市である。その名が「新しいシベリアの街」を意味するように、19世紀末につくられた新しい都市でありながら、人口は国内第3位を誇っている。街は工業や商業、住宅地区などに細かく分けて整備されており、博物館や劇場、スポーツ施設なども充実している。つくば学術研究都市のモデルにされたともいわれるアカデムゴロドクには、ノヴォシビルスク大学をはじめとする高等教育機関が立地している。またこの街は、北海道の札幌市と姉妹都市協定を結んでおり、シベリア北海道文化センターのような日本文化を紹介する施設も存在する。

地下鉄や路面電車、バス、マルシュルートカと呼ばれるバスタクシーなどの交通機関が充実しており、これらを利用して街を行き来することができる。日本でいうところのコンビニであろうか、飲み物や軽食を売る小さな店が街のあちこちに点在していて、私たちがよく利用した。観光地ではないこともあってノヴォシビルスクにはあまり外国人がおらず、私たちが歩いていると物珍しそうな目で見られることが多かったが、日本から来たことを伝えると皆親切に接してくれ、人々の優しさを感じられるような街である。

関東本部について

関東本部について

関東本部 幹事長

上智大学二年 荻原崇之

概要

関東本部は1988年に設立された日ソ学生交流会を前身として、現在に至るまでリヤザン・ノヴォシビルスクとの学生間交流を中心とした活動を行ってきた。近年の活動は訪日・訪口企画以外にも昨年度から始まった駒場祭への出店、また外部からイベントのお話をいただくなど活動は多岐にわたっている。会員の中心メンバーは上智大学・東京大学・東京外国語大学などの学部1,2年生だが、OB・OGの方々の努力もあり、早稲田大学・慶應義塾大学など他にも様々な大学からの会員も増加し、ますます多様性を増している。メンバーにはロシア語を専門としている人に限らず、第二外国語や趣味、ロシアだけでなく周辺地域に関心がある学生、学生交流に興味があるなどの理由で当団体に入る学生も増えている。幹事交代式は従来毎年11月であったが、駒場祭の出店により昨年度と今年度は12月に幹事団が交代している。

活動報告

本年度は前年度に引き続き、訪日・訪口企画以外の活動拡充およびより外部にオープンでより多くの人に様々な興味を持ってもらえるような交流会にしていくことを目標に活動してきた。先代の努力もあり、新歓で来てくれた1年生の数も増えた。5月には北方領土交流受入事業への参加、8月には択捉島、国後島（北方領土）の訪問事業への参加、10月には日露青年交流会事業での都内散策、11月には駒場祭への出店するなど企画の充実を図った。OB・OGの方々の財政的な努力もあり、今年度は会費に余裕があり、訪日・訪口企画などに資金の余裕を持って供給できた。また外部団体からの企画なども会員に提供することができた。そして前年度同様に月2回のペースを基本とした定例会、研究部を中心とした勉強会を行った。またFacebookページの更新、外部の活動を含めアピールすることにも重点を置いた。

今後の展望

本年度は昨年度の流れを汲み、会員数や参加大学の数も大幅に増加したため考えや意見が多様化し、ディスカッションや勉強会などのテーマが多様多様になった。一方で増えた会員をまとめることができず、幹事団の仕事に遅滞が生じることがあり、不肖な面をみせてしまうことがあったのは残念である。またこの膨大な会員数の下では各会員のモチベーションに多少の温度差が出てしまった。会員全員がより積極的に活動に参加し、つながりを持つということは先代からの課題であった。しかし今年度もそれを克服することはできたとはいえない。会員数が増えていく現在の流れを考えて、連絡体制や企画など全体のマネジメントをより一層向上させなければいけない。幹事団など上の立場に立つ者が決断力を示すことが肝要だろう。

外部団体との関係については引き続き良好な関係を保つことができた。外部団体の方々には学生にはできないより本格的で貴重な機会を多く提供してくれる。よりオープンで積極的な対外姿勢をテーマに置いている当団体としては、現在お世話になっている団体だけでなく新たな団体との出会いにも期待したい。

企画にご協力いただいた方々

- 公益財団法人／平和中島財団
- 外務省欧州局
- 上智大学外国語学部ロシア語学科教授
／上野俊彦氏
- ホームステイでお世話になった方々
- 当会関係者の方々

ご協力いただいた方々に会員一同、厚く御礼申し上げます。
本当にありがとうございました。

第一部 第14回関東本部主催訪日企画

第一章 企画概要

企画概要

企画名 第28回日本ロシア学生交流企画

主催 日本ロシア学生交流会

共催 ノヴォシビルスク Нитиро

助成 平和中島財団

実施期間 2015年8月3日～8月13日

実施場所 日本（東京都、神奈川県）

本会会員参加人数 60人

主な企画内容

[ホームステイ]

ロシア人メンバーはそれぞれの日本人メンバーの家庭にホームステイをした。今回、初めて日本を訪れるというロシア人も少なくなく、日本の生活を新鮮なものに感じたことだろう。また、日本人にとってもロシア人と生活を共にすることで生活様式の違いを発見することができる良い機会となった。お互いにとって有益なものになっていたのなら幸いである。

[ディスカッション]

訪日企画で、2日間に分けてディスカッションを行われた。テーマは「日本とロシアの家族と子供の教育」と「日本とロシアの雇用とジェンダー観」である。事前にこれらのテーマについて勉強会を行い、ある程度の知識を持って臨んだ。ただ、ディスカッションすることで日本にはなかなか知ることができない、より深い実情について理解することができた。

[文化紹介]

例年通り、日本人はロシア語でロシア人は日本語で自国の文化を紹介し合った。お互いの文化について少なからず知っていたと思うが、初めて知ることとなる文化も数多くあり、皆が興味津々に話を聞いていたのが印象的だった。

[都市散策・調査]

企画の前半では日本の古風な雰囲気が漂う鎌倉や浅草の見学の行き、後半には秋葉原や表参道など日本の近代的な観光地を訪れた。歴史や文化など日本の様々な側面を垣間見ることができる機会となった。

[交流企画]

この訪日期間中、様々な企画を実施した。これらの企画に参加している皆、普段体験できないものとして楽しんでいる姿が見受けられた。初めて、日本人とロシア人が出会ったウェルカムパーティーの際は緊張からかあまり会話が少なかったとはいえないが、日に日に親睦が深まっていき、交流も充実したものになっていった。

[報告書の発行]

日本ロシア学生交流会が主催した様々な企画の活動内容や日本とロシアの学生による交流を通して得たものをまとめ、本会の活動意義について報告するため、本報告書を編纂する。

プログラム日程

8月3日(月)～8月13日(木)

月日	時間	イベント
8月3日(月)	16:25 成田着 20:00～22:00	ロシア人來訪 ウェルカムパーティー たかの家 (@水道橋)
4日(火)	11:00 11:30	浅草駅集合 花やしき 忍者体験 浅草散策
5日(水)	11:00 18:00頃	大船駅集合 鎌倉、江の島など 大船駅解散
6日(木)		ファミリーデー
7日(金)	13:00 18:00	テレコムセンター駅集合 お台場散策(日本科学未来館、ショッピング モール、観覧車など。) 移動、銭湯 宿泊
8日(土)	10:00～12:00 16:00頃	ディスカッション @東大駒場 渋谷で昼食 渋谷散策 解散
9日(日)		ファミリーデー
10日(月)	10:00～12:00	ディスカッション @上智 水道橋で昼食 東京ドームシティ
11日(火)	13:50 14:00 19:30～20:30	原宿駅集合 明治神宮見学 グループに分かれて原宿、表参道 夕食も各自 上智前弁慶掘へ移動 明治神宮外苑花火大会 四ッ谷駅解散

12日(水)	13:30	神谷町駅集合 東京タワー観光
	15:30	秋葉原散策
	18:30	フェアウェルパーティー @板橋 Masazu
13日(木)	15:40 成田発	ロシア人帰国

参加者一覧

<ロシア側>

名前	大学・所属
Natalya Rychkova	ノボシビルスク国立工科大学
Ekaterina Pozhidaeva	ノボシビルスク国立工科大学
Ekaterina Maksimova	ノボシビルスク国立工科大学
Tantiana Borduleva	ノボシビルスク国立工科大学
Vladimir Tambovtsev	ノボシビルスク国立工科大学
Roman Sotnikov	ノボシビルスク国立工科大学

< 日本側 >

名前	大学	学年
李優大	東京大学	4年
井原大都	上智大学	3年
服部雅史	上智大学	3年
横江智哉	東京大学	2年
児玉丈爾	東京大学	2年
小須田裕美	東京大学	2年
原田美緒	東京大学	2年
荻原崇之	上智大学	2年
番場安花莉	上智大学	2年
浅野晨	上智大学	2年
石田茂年	上智大学	2年
東谷友里恵	上智大学	2年
溝口莉衣奈	上智大学	2年
中谷早希	上智大学	2年
高川真由子	上智大学	2年
早野沙羅	上智大学	2年
勝又菜摘	上智大学	2年
清水真伍	上智大学	2年
皆上葉月	東京外国語大学	2年
民岡龍己	東京外国語大学	2年
塚原光	早稲田大学	2年
緒方美友	東京理科大学	2年

河合遼	法政大学	2年
中村光紀	東邦大学	2年
川辺春希	東京大学	1年
小堀航己	東京大学	1年
中山義裕	東京大学	1年
藤江教貴	東京大学	1年
西野光紀	東京大学	1年
富樫柁人	東京大学	1年
石川里奈	東京大学	1年
石川智也	上智大学	1年
秋山沙希	上智大学	1年
尻無濱優香	上智大学	1年
田中真梨乃	上智大学	1年
櫻庭亮太	上智大学	1年
弓取奨平	上智大学	1年
佐藤亮太	上智大学	1年
小杉拓己	上智大学	1年
小林野愛	上智大学	1年
阿部桃子	上智大学	1年
有馬隼人	上智大学	1年
古川怜雄	上智大学	1年
前田凜々	上智大学	1年
鶴見百英	上智大学	1年
小金井順子	上智大学	1年

山口佳奈子	上智大学	1年
奥村弘希	上智大学	1年
諏訪一功	上智大学	1年
中尾伶	慶応義塾大学	1年
笠原大生	慶応義塾大学	1年
蓮田柚香	慶応義塾大学	1年
松尾祥汰	国際基督教大学	1年

会計報告

(文責：勝又菜摘)

2015年8月3日～13日

〈収入〉

項目	金額
助成金	¥280,000
日口座	¥69,858
合計	¥349,858

〈支出〉

日付	項目	内訳 (単価)	人数 (ロシア人参加者のみ)	合計	備考
7月17日	ピザ送料			¥ 3,000	
8月3日	ウェルカム パーティー代 (夕食代込)	¥ 3,000	6	¥ 18,000	
8月4日	忍者体験道 場 (花やしき)	¥ 2,000	6	¥ 12,000	
8月5日	交通費 (江の島・鎌倉 フリーパス)	¥ 700	6	¥ 4,200	
	大仏参拝料	¥ 200	6	¥ 1,200	
8月7日	交通費 (テレコムセン ター-入谷)	¥ 700	6	¥ 4,200	
	日本科学未 来館入場料	¥ 490	6	¥ 2,940	
	観覧車代	¥ 514	6	¥ 3,084	
	銭湯代	¥ 560	6	¥ 3,360	
	交通費 (代々木上原 -入谷)	¥ 520	3	¥ 1,560	

	交通費 (入谷-上野- 横浜)	¥ 720	1	¥ 720	
8月8日	交通費 (駒場東大前 -渋谷)	¥ 130	6	¥ 780	
8月10日	交通費 (四ツ谷-水道 橋)	¥ 160	6	¥ 960	
	東京ドームシ ティ団体割引 1日券代	¥ 2,900	6	¥ 17,400	
8月11日	交通費 (原宿-四ツ 谷)	¥ 160	6	¥ 960	
8月12日	交通費 (神谷町-秋 葉原)	¥ 200	6	¥ 1,200	
	交通費 (秋葉原-板 橋)	¥ 220	6	¥ 1,320	
	フェアウェル パーティー代 (夕食代込)	¥ 3,700	6	¥ 22,200	
8月3日 ~ 8 月13日	ホームステイ 支援費	¥22,000	6	¥132,000	朝食:¥300 10日分 昼食:¥1,000 10日分 夕食:¥1,000 8日分 ファミリーデー:¥500 2 日分
8月3日 ~ 8 月13日	交通費			¥118,774	
			合計	¥349,858	

第二章 ディスカッション／文化紹介

【ディスカッション】

本年度の訪日企画においても例年と同じく日本・ロシア両国の文化理解を深めることを目的としたディスカッション・文化紹介を行いました。ロシア人たちの滞在期間のうち8月8日、8月10日をこの企画に充て、8日は東京大学、10日は上智大学にてそれぞれテーマに合わせたディスカッションをしました。8日は「日本とロシアの宗教」、「両国における魅力的な異性の基準」を、10日は「日ロ友好の為に」、「日本とロシアの食文化」をテーマとしました。テーマごとに決められた発表者が自国の文化紹介を相手側の言語(日本人はロシア語、ロシア人は日本語)を使い発表し、その後それをもとにディスカッションをするという形式を取りました。

どのテーマでも議論は非常に盛り上がり、設けた時間では足りないほどでした。同じ目線の学生という立場でお互いの国のことを話し合えたことで共感するところも少なからずあり、議論を通して知識を深めると同時に絆を深めることも出来ました。例年にも増して有意義なディスカッションだったと感じた次第です。

以下にそれぞれのテーマで行ったディスカッションにおいて両国の学生からなされた意見のうち、ロシア人学生の意見を中心に特筆すべきものを箇条書きにてまとめさせていただきます。

8日

「日本とロシアの宗教」

- ・正教会がマジョリティであるが宗教に対する熱心さは人によって差異がある。
- ・ソビエト連邦という社会主義国家の中で長らく宗教が抑圧されていたため、宗教自体への熱は諸外国と比べ高いという
- ・正教会が中心であるが、それより以前に存在した古くからある民間信仰の習慣が今でも残っており、多くのロシア人がそれを祝う
- ・民間信仰が正教と結びつき文化として根付いたものも多い。 例:マースレニツァ
- ・ロシア人の名前も多くはキリスト教の聖人を起源としており、そういった意味でもキリスト教(正教)と切っても切れない関係にある
- ・若者の宗教離れは在る

「両国における魅力的な異性の基準」

- ・ロシアでは色白より多少日焼けをしているほうが人気がある。=運動をする健康的なイメージ

- ・男性は強く、女性は美しく が基本
- ・男性には身長、筋肉が求められる。
- ・見た目を気にしすぎる男性はNG。髪を染めたり、ヘアワックスを使ったり、洋服に気を遣いすぎている男性は女々しいとされあまり人気がないのだそう。
- ・女性は大人のレディであることが重要。かわいい=子供っぽいになってしまう。
- ・体のスタイルはとても重要

10日

「日ロ友好の為に」(学生の視点から考える日ロ関係改善への道)

- ・政治的なことについて学生が関わっていくのは難しい
- ・こういった文化交流、草の根の交流が非常に重要
- ・平和への道、戦争の最大の抑止力はお互いがお互いを好きになること、友人をつくること
- ・SNSなどを通して日本人がロシアに持つステレオタイプな暗いイメージを払しょく
- ・互いの国の情報が一部しか知られていないことが問題(質も悪い)
- ・学校教育も同じく情報が少ない
- ・お互いの情報を浸透させることが大切
- ・経済が重要 ⇒互いの産業を売り込む
- ・アメリカとロシアが仲よくなればひいては日本とロシアの関係も良くなるのではないか
- ・インターネットを使った交流で学生もきっと何かできる

「日本とロシアの食文化」

- ・互いの国の料理店が存在するがどちらも日本化、ロシア化された料理
- ・ロシアには寿司屋がとても多い
- ・ファストフードは共通が多かった ⇒ハンバーガー、ホットドッグ、チョコレート、エナジードリンクなど
- ・ロシアでは大皿にのせた料理をみんなで食べる。食器を持つのはNG
- ・ロシアではお菓子は甘くないといけない。甘くないものはお菓子ではない(ポテトチップなどはお酒のつまみ扱い)
- ・ロシア人はみんな甘いものが大好き。お菓子好きが多く、たくさん食べる。
- ・ロシアでは食のブームが海外の影響を受けづらい
- ・記念日などは大きなお菓子で祝う
- ・マヨネーズ、スメタナが必需品 マヨネーズはバケツサイズを常用する家庭が多い

文責 石田茂年(上智大学神学部神学科2年)

【文化紹介】

横江智哉

РЕЛИГИЯХ В ЯПОНИИ

Токийский университет 2-ой курс Томоя ЙОКОЭ

Здравствуйтесь, дорогие друзья, и добро пожаловать в Токийский университет, Комаба.

Меня зовут Томоя ЙОКОЭ, я учусь на втором курсе Токийского университета. В университете я изучаю славистику.

Сегодня мы разговариваем о двух предметах Японии и России. Первый предмет --- о религиях. Сначала, я коротко объясню о религиях Японии, потом разговариваем о них Японии и России.

В Японии есть разные религии. Особенно, многие японцы участвует в разных ритуалах видов религий. Например, 24-го и 25-го декабря поздравляют с Рождеством, несмотря на то, что большие японцы не христиане. И последнего дня года, позвонят новогодний звон кололов в буддийских храмах. С Новым годом, люди идут в синтоические храмы. Эти делает один человек --- например, я. Почему?

С самого начала, в Японии верят в синтоизм, японский культ природы. В 538(пятьсот тридцать восьмом) году, однако, из Кореи передался буддизм. Тогда японское государство получает буддизм. Но синтоизм тоже сохранился. Не только это, но буддизм и синтоизм даже сливались. Затем, Япония часто училась новому буддизму из Китая. Кроме того, внутри Японии, появились многие секты. Таким образом, большинство японцев стало верить в какую-то секту буддизма.

В 1549(тысяча пятьсот сорок девятом) году, Франциск Ксаверий, миссионер Общества Иисуса, прибыл к Японии и передал христианство. Сначала, японское государство защищал миссионеров за торговлю с ним. Но японские христиане часто сопротивляются государству за свою веру, поэтому государство запретило христианство. Лет 250(двести пятьдесят), в Японии христиане скрывались и защищал свою веру. Поэтому в Японии христиане меньше.

В второй половине 19-го века, начала Мэйдзи эра. В эту эпоху Япония модернизировала и училась европейским культурам, техникам, юриспруденциям, и так далее. Христианство снова разрешили. Но многие японцы уже верят в какую-то секту буддизма, поэтому христианство не может быть большинством японских религий.

После Второй мировой войны, в японском государстве религия уже не играла большой роли. И всякие церемонии разных религий получались. Собственно говоря, япония великодушна по религии поскольку она не опасна для общества и государства.

Как вы думаете об этом? И как в России? Например, как часто вы идете в храм или церковь? Как устраиваете похороны? Давайте разговариваем.

日本の宗教について

日本には様々な宗教がある。さらに、日本人は複数の宗教の行事に参加する。例えば、12月24日と25日には、日本人の多くがキリスト教徒でないにもかかわらず、皆がクリスマスを祝う。そして大晦日には仏教寺院で除夜の鐘を鳴らし、年が明けると神社へ初詣に行く。これら全てを、例えば私のような、1人の人間がするのである。なぜだろうか？

そもそも日本では自然信仰としての神道が信仰されていた。しかし538年、韓国から仏教が伝来すると、当時の日本の政権は仏教を受容した。だが、神道も引きつづき信仰され続けた。それだけではなく、仏教と神道が混合することさえあった。その後、日本は中国から新しい仏教を学び、さらには日本国内でも様々な宗派が現れた。こうして、大多数の日本人は仏教の何らかの宗派に属することとなった。

1549年にイエズス会宣教師のフランシスコ・ザビエルが日本に漂着し、キリスト教を伝えた。当初、日本の政権は宣教師たちとの貿易を目的に彼らを保護していた。しかし、日本のキリスト教徒がよく自らの信仰のゆえに政権に反抗したため、政権はキリスト教を禁止した。約250年もの間、日本のキリスト教徒たちは隠れて自らの信仰を守り通した。こういうわけで日本においてキリスト教徒は少ないのである。

19世紀後半に、明治時代が始まった。この時代に日本は近代化し、西欧の文化、技術、法学などを学んだ。キリスト教は再び認められたのである。しかし、多くの日本人は既に仏教の何らかの宗派を信仰しており、それで日本においてキリスト教徒は多数派になり得なかったのである。

第二次世界大戦後、日本政府において宗教はもはや重要な役割を果たさなくなった。そしてあらゆる宗教の儀式が受容されるようになった。一般的に言って、日本は社会や政権にとって危険なものでない限り、宗教に対しては寛容なのである。

民岡龍己

Для дружественных отношений между Японией и Россией

Япония расположена недалеко от России. Между двумя государствами в течение более ста лет существуют политические отношения. И между ними произошла война.

А в настоящее время остаётся территориальная проблема, из-за чего ещё не заключён мирный договор между обеими странами. Следовательно, к сожалению, приходится считать политические отношения не хорошими. Но между двумя странами есть непрерывный людской поток. Некоторые японские и российские студенты, как на сегодняшней дискуссии, обмениваются мнениями друг с другом. Сейчас давайте расскажем о том, что необходимо сделать для дружественных отношений между Японией и Россией!

日露友好のために

日本はロシアと近いところに位置しています。両国間には100年以上にわたって政治的な関係が存在しています。また、両国間に戦争が起こったこともあります。そして現在では領土問題が残存し、そのために両国間では未だに平和条約が締結されていません。それゆえに、残念ながら政治的な関係は良くないものと考えられています。しかし、両国間には絶え間ない人々の流れがあり、このディスカッションのようにお互いに意見を交換しあう日本人とロシア人の学生たちもいます。日本とロシアの友好関係のために何をする必要があるかを話し合ってみましょう！

清水真伍

Какие японские блюда Вы знаете? Я думаю, что одно блюдо из самых известных, это суши. Суши слишком известные, поэтому разговаривать об этом не интересно. Сегодня Я хочу рассказать Вам о японской известной еде, которая радилась за границей.

Вы знаете рамэн? Теперь рамен очень известное японское блюдо и есть иностранцы, которые приезжают в Японию, чтобы есть его. Рамэн это очень известное японское блюдо, но рамэн появился в Японии двадцатые годы двадцатого века. Он пришел из Китая.

В России тоже есть еда из-за границы, например, борщ из Украины десятые и двадцатые годы двадцатого века. Теперь суши тоже появились в России и суши рестораны очень популярны. Но в Японии часто по телевизору передают о русских суши и о разнице между русским и японским блюдами. Многие японцы не считают русские суши настоящими. Но китайцы тоже не считают японский рамен настоящим. Бессмысленно критиковать блюда, которые изменили на иностранные вкус. Например, русские думают, что их суши вкусные и в этом ничего страшного. Поэтому когда одно блюдо за границей приобретает другой вкус, это

можно назвать обменом культурой между двумя странами.

どのような日本料理をみなさんにご存じですか？もっとも有名なものの一つは寿司でしょう。寿司はあまりにも有名なので、これについて話すのはあまり面白くないかもしれません。今日はみなさんに外国生まれの有名な日本食についてお話したいと思います。

ラーメンをご存じですか？今やラーメンはとても有名な日本食であり、それを食べるために日本を訪れる外国人もいます。ラーメンはとても有名な日本食です、しかしラーメンが日本に現れたのは 1920 年代のことです。中国からやってきました。

ロシアにも外国から入った料理があります、たとえばボルシチはウクライナから 1910 年から 1920 年代にやってきました。今は寿司も現れロシアで寿司レストランはとても有名です。日本ではしばしばロシアの寿司と日本とロシアの寿司の違いがテレビで取り上げられています。多くの日本人はロシアの寿司を本物の寿司と見なしていません。しかし中国人もまた日本のラーメンを本物と見なしていません。外国の味覚に変えられた料理を批判するのは無意味なことです。たとえばロシア人はロシアの寿司をおいしいと思っています。そこには何らの不都合はありません。外国の料理が他の国の味覚に合わされていったとき、これを二つの国の間の食文化の交流と呼ぶことができるのです。

小堀航己

Соевые продукты

У нас в Японии много отличительных продуктов, например, лопух, порфира, сасими, и так далее. Но использование соевого боба особенно разный. Если сварить и потом заквасить его со солома, у тебя будет натто. Если после сварении ты помешаешь его со солью и закваска, заквасишь это и потом выжмешь сделанный предмет, ты получишь мисо и сёю, значит, соевая паста и соевый соус по-своему. Когда сварить раздавленный боб и потом выжмешь это, у тебя будет тофу, значит соевое молоко. Ещё из горячее тофу, если смешанное с соляным раствором, у тебя будет тофу, соевый товорог. При еде тофу, мы посыпем сёю на тофу. Тогда мы посыпем соевый продукт на соевом продукт. Это не интересно?

Так, вы знаете какие-то другие продукт, типичные в Японии? А в России какие продукты и блюда характерные? Давайте скажем друг другам.

大豆食品

我々の日本にはたくさんの特徴的な食べ物、たとえば、ごぼう、海苔、刺身など、があります。ですが大豆の利用は特に様々です。大豆を蒸して藁と一緒に発酵させれば納豆ができます。蒸したあとに塩や麴と混ぜて発酵させ、できたものを搾ると味噌と醤油、つまり大豆のペーストやソースができます。つぶした大豆を煮てこれを絞ると、豆乳、つまり大豆ミルクの出来上がりです。さらに、熱した豆乳をにがりと混ぜれば、豆腐、つまり大豆カッターチーズの完成です。豆腐を食べる時には、我々は豆腐の上に醤油をかけます。このとき、大豆製品に大豆製品をかけているのです。面白くないですか。

さて、日本に特徴的な他の食べ物を何か知っていますか。そして、ロシアではどんな食べ物の特徴的ですか。お互いに話してみましょう。

松尾祥次

Кого среди представителей противоположного пола вы считаете привлекательными? Мне кажется, этот вопрос актуален в любой стране. Я думаю, что вы должны любить разговаривать с друзьями о девушках или парнях, например <Она красивая><Он симпатичный>. Я хочу, чтобы вы думали о таких случаях.

В разных странах есть тенденция. Я думаю, что каждая страна должна иметь отдельное мнение о девушках и парнях. Например в Японии хвалят красивого парня, называя его японским словом <икемэн>, это значит <прекрасный человек>. А когда хвалят девушку, всегда говорят ей, что она <кawaii>, что значит <милая>.

Когда в Японии встречаются с девушкой или поренем просто для отоношения и когда они встречаются, думая о свадьбе, как им любить друг друга, когда они такие разные? А как у вас в России?

テーマ《魅了的な異性》

さて、皆さんにとって魅了的な異性とはどのような人物でしょうか。いきなり何を聞いてくるんだこいつ、とお思いの方もいらっしゃるかもしれません。しかし、この手の話は古今東西問わずよく会話のタネになるものでしょう。『～君がカッコイイ!』『～さんはキレイだ』などと盛り上がったことが一度はあるのでは。今回のディスカッションテーマはそんな感じのノリでしてほしいです。もちろん好みに個人差はあるでしょうが、その国独特の傾向もあるでしょう。例えば日本では容姿の整った男性を「イケメン」と称して褒めます。また、女性を褒める時はたいてい「かわいい」と褒めます(僕はかわいい以外の褒め方もたまにはしろよと思いますが)。他にも恋人としての対象と結婚する対象は違うと言われることもあります。ロシアではどうなのでしょう。

Since ancient times the cross-countries experiences and relations have been significant for the steady development of any country. History reveals us many facts of the countries' mutual endeavors and exchange activities in order to see and make the acquaintance of different way of life, to bring goods, to adopt practices and technologies, to share knowledge and ideas in order to enrich its own culture. Nowadays, under the conditions of world globalization, the creation of solid international relations is vital.

It is also known that, in all times, there have been several aspects: political, geographical, economic, cultural etc., which directly and indirectly influence, further or inhibit the cross-countries relationships.

The international interactions between Japan and Russia undoubtedly possess peculiarities and at times could have been described as ambiguous, however in aspiring to the prosperous future, people of the both nations are always tending towards the establishment of the mutually efficient relationship.

And certainly that very process requires not a one day and a lot of resources. At the same time, great things always start from small beginnings, and therefore I believe that every individual represents the precious resource of cultural heritage: we live, grow in particular social and cultural environment, on the ground of our own education, gained knowledge and experience we develop our own vision, we might have different hobbies and skills. And another point is that we are also able to share and transfer that heritage and be recipients of other cultures' heritage, knowledge and ideas. That belief eventually leads to the thought that each and every concerned person is able to take part in the process of establishing cross-cultural relations, and so to say, operating within that mentioned above "cultural aspect" able to contribute to the benefits, mutual developing and enrichment of both Russian and Japanese societies.

As an example I would like to mention how the enthusiasm but also great hardworking of one inspired man from Sapporo led to the foundation of the center known nowadays as Siberia-Hokkaido cultural center located in Novosibirsk. For almost 20 years the center has been successfully functioning and offering the great variety of authentic Japanese materials and different activities to the citizens: holding exhibitions and excursions, Japanese language courses, organizing different events, and of course one of the main center's activity is maintaining and developing the sister cities relation

between Sapporo and Novosibirsk.

And last year, having the chance to take part in an annual youth delegation to Sapporo I was impressed not only by the cordial welcome and interesting program, but again deeply touched by the attitude and contribution to our program by numerous volunteers. As well as I cannot but mention that the chance of participating in this year Nichiro program also provides the great opportunity to get cultural exchange experience, the opportunity to share and gain.

In conclusion, I would like to add that with the help of the 21th century communication technologies it is also easier to unite all those people with the right motivation, common ideas and values, willing for mutual contribution and benefit. And together it is possible to bring that well known synergy effect which is able to improve and develop any cross-cultural interactions: establish sister cities relations, or create Nichiro associations of any kind across the both countries, or provide the assistance in various events, and no matter how big the scale is, whether it's just a small local intercultural event or big international one.....

Finally, I want to believe that constant improvement of cross-cultural relations, less susceptible to international policies changes or economic deviations may eventually favour to the general harmonic development of Japanese-Russian international interaction.

かつてから国際的な経験と国同士が関係をもつことは全ての国の安定した発展にとって意義深いことでした。歴史は、異なる生活様式の人々と出会い知り合うため、物産をもたらすため、習慣と技術を受け入れるため、自身の文化をより豊かにするため知識とアイデアを共有するための国同士の努力と交流活動があった事実を私達に明らかにしています。今日、グローバリズムの環境下において強固な国際関係を築くことは重要なことです。

また、全ての時代を通して、政治、地理、経済、文化など直接的もしくは間接的に影響力をもち、国際交流を促進、その一方で抑制してきた様々な局面があったことも知られています。

日露間の交流は間違えなく独特であり、時に曖昧なものであったと表現されかねないものです。しかし将来的な繁栄を求めらる中で両国の人々は常に相互の効率的な関係の構築に傾いています。

そしてその過程はわずか一日による完成や多くの資源を要求するものでは決してありません。偉業とはいつでも小さな出発点から始まるものです。そのため私は、全ての個人が文化的遺産の貴重な根源になり得ると信じています。私達は特定の社会的また文化的環境に生活しそこで成長し、自身の教育、得られた知識、そして経験の基盤に立ち私達は自身のものの見方を発展させ、私達は異なる嗜好や能力をもっています。私達は遺産を共有そして変形させ、文化的遺産、知識、アイデアの受取人になることができます。この信念は、関係する全ての各個人が国際関係構築に参

加できるのだという考え方に最終的に繋がります。それはいわば、上で述べた様々な「局面」が様々な利益に貢献し得るプロジェクトであり、日本とロシア両国双方を発展させ豊かにしていくことになります。

例として私は札幌出身のある奮起させられた男性の熱心さと大変な努力がどのように、ノヴォシビルスクに位置し今日では「シベリア・北海道文化センター」として知られるセンターの創設に繋がっていったのかについて触れたいと思います。二十年間にわたりセンターは滞りなく活動し多様な真の日本の物産や異なる活動を市民に提供してきました。展覧会、遠足、日本語教室、さらに様々なイベント企画、そしてもちろん札幌・ノヴォシビルスク間の姉妹都市関係の維持と発展などがその活動です。

昨年には毎年行われる若者代表派遣に参加する機会を得、私は心からの歓迎とそれだけでなく興味部会プログラムに圧倒され、さらにまた多くのヴォランティアの人々の姿勢と貢献に感動させられました。

また私は二十一世紀の情報技術の発展の助けによりこのような正当な意識、共通のアイデア、価値観、相互の協力と利益への積極性をもつ全ての人々がより簡単に繋がることができることも加えたいと思います。こうして共に、全ての国際関係を発展させられるよく知られた相互作用をもたらすことができるのです。それは例えば姉妹都市の締結であり、二国間のどのような日露関係の創造であり、もしくはどんなに大きくてもまたは地域的な小さな国際交流でもそれらに手を貸す事でもあります。

結びとして、私は、政治的もしくは経済的变化に影響されない継続的な国際関係の発展は調和の中にある共通的な日露国際関係の発展を最終的に促進してくれると信じています。

Ekaterina Maksimova

Я бы хотела рассказать вам о русской кухне. Что вы о ней знаете? Наверняка вы слышали такие названия как борщ и пирожки. Но русская кухня этим не ограничивается.

Имеется множество исконно русских блюд, например, блины.

Еще одна исконно русская еда – это черный хлеб. Пирожки до сих пор – одно из любимых русских блюд. Пирожки пекут с разнообразной начинкой: с мясом, рыбой, яйцами, творогом, грибами, капустой, с ягодами и фруктами. Так же особенность русской кухни – это большая популярность различных супов. Супы бывают горячими и холодными. В первую категорию входят щи, рассольники, уха, солянки,

борщи. Холодные супы, такие как окрошка или свекольник особенно популярны летом. Традиционным блюдом российской кухни являются и каши. Крупьяные блюда очень сытные, часто к ним подают различные соусы, мясо или рыбу. Гречневую кашу называют «символом русского своеобразия». В приготовлении блюд так же используются молочные продукты, такие как молоко, кефир, сметана и творог. Популярными у русских так же являются разнообразные соленья.

Если говорить о способах приготовления пищи, то самыми распространёнными являются варка, жарка, тушение.

В России при приёме пищи так же есть свои правила этикета. При приёме пищи используют ложку вилку и нож. Класть локти на стол не желательно.

Во время еды необходимо стараться не издавать никаких звуков — будь то стук приборов о тарелку или зубы, чавканье или прихлебывание супа.

Если у Вас во рту еда сначала прожуйте, проглотите еду, и уж только потом вступайте в диалог.

В российской кухне есть много различных блюд и они отличаются от японских, какие бы вы хотели попробовать, а может даже приготовить?

ロシアの料理について話したいと思います。皆さん、ロシアの料理について何か知っていますか。きっとボルシチやピロシキなどという料理の名前を聞いたことがあるでしょう。でも、ロシアの料理はそれだけではありません。ロシアの伝統的な料理はたくさんあります。例えば、ブリヌィーがあります。更に、もう一つのネイティブのロシアの食品は黒パンです。ピロシキはロシアで好まれている料理の一つです。ピロシキの中に肉、魚、卵、カッテージ・チーズ、キノコ、キャベツ、果実や果物などいろいろ詰め物を入れます。ロシア料理の特殊なところは、様々なスープが人気なことです。熱いスープと冷たいスープがあります。熱いのはシチー、ラッソルニク、ウハ、ソリャンカ、ボルシチです。オクローシカのような冷たいスープが良く食べられる季節は夏です。カーシャもロシアの伝統的な料理の一つです。穀物は栄養で富んでいる料理で、色々なソース、肉、魚をつけて食べます。グレチネヴァヤカーシャはロシアの独創の象徴だと言われています。料理にも牛乳、ヨーグルト、サワーク

クリームとカッテージチーズなどの乳製品を使用しています。ロシアで多様な漬物も人気です。料理を作る方法について言うとロシアで最も一般的なのは煮物、もの、蒸し煮です。

ロシアでは、食事のマナーがあります。例えば、食事中 スプーンとフォークとナイフを使います。食事する時、机の上に肘を置いてはいけません。食事中にムシャムシャという音をたてたりスープを飲むときのズルズルという音や食器のノック音などをしないほうが良いです。もし口の中に食べ物があったら、最初に食べ物を飲み込んで、それをした後で話を続けます。ロシアには日本と違っている料理がたくさんあります。どんな料理を食べてみたいですか。もしくは、作ってみたいですか。

Natalya Rychkova

ご紹介(しょうかい)に預(あず)かりました、ノヴォシビルスク国立工科大学のプロ通訳コースの2年生で、ナタリア・リチコーワと申します。宜しくお願い致します。

本日、「魅力的(みりょくてき)な異性(いせい)」というテーマについて簡単にお話したいと思っております。

皆さん、どこかで美人やイケメンを見かけた時、思わず「ああ、何て美しいんだろう」とか「かっこいいなあ」と考えるでしょう。でも、どうしてこのように思うのかわかりますか。この人達の絵をご覧ください。ロシアではこの人たちがいわゆる美人とイケメンだと言われます。では、どうしてそのように思われるのか考えてみましょう。

もちろんそれぞれの男性と女性の美(び)の基準(きじゅん)には個人的(こじんてき)な好(この)みが関(か)かかりますが、美人やイケメンと思われている人には一般的(いっぱんてき)なポイントがあります。容貌(ようぼう)と性格(性格)の二つのポイントがありますが、時間が限(かぎ)られているため、ここでは容貌(ようぼう)についてお話ししましょう。

1. 日焼(ひや)け

軽(かる)く日焼(ひや)けした人は白い肌(はだ)をしている人より人気があります。なぜかという、白い肌(はだ)は元々(もともと)貴族(きぞく)の特性(とくせい)だったと思われているため、白い肌(はだ)をしている人は散歩(さんぽ)、ハイキング、活気(かっき)が必要(ひつよう)な活動(かつどう)があんまり好きではないと思われているからです。

しかし、日焼(ひや)けしすぎると、逆(ぎやく)に変(か)な人として思われてしまう上に、信頼(しんらい)のできない人のイメージが持(も)たれてしまいます。

2. 細(ほそ)さ

細(ほそ)さと言われても、自然(しぜん)の細(ほそ)さよりスポーツマンらしい姿(すがた)の人の方(ほう)が人気です。それは、社会(しゃかい)では自分の体を大事(だいじ)にしている人がスポーツをするし、生活(しよくせい)が適切(てきせつ)なので、健康(けんこう)も良いと考えられているからです。

さらに、自然の細さは体の弱(よわ)くて、健康(けんこう)も悪(わる)い人のイメージがします。

3. おしゃれが上手

自分の容貌(ようぼう)をあんまり気にせずに、毎日同じ服(ふく)を着ていて、自分自身がないようなイメージの人がいます。それと逆(ぎゃく)に、おしゃれの上手な人は自身を持って、カリスマのある人として思われています。

メチャメチャな服(ふく)を着ている人とおしゃれの上手な人、どちらの人に話しかけたいと思うかはそれぞれの人によって違(ちが)いますが、必(かなら)ずおしゃれの上手な人と話しやすく、よりスムーズな会話になると言えることでしょう。

また、おしゃれ過(す)ぎる人は女王(じょおう)か王様(おうさま)のような冷(つめ)たい印象(いんしょう)をして、このような人にはあんまり声をかけたくなくなるでしょう。

次の容貌(ようぼう)のポイントは性別(せいべつ)によって分けてみましょう。女性の方から始めさせていただきたいと思います。

4. 髪(かみ)の毛(け)が長い

綺麗(きれい)で、シルクのように柔(やわ)らかい女性の髪の毛は男性にはありません。男性の立場(たちば)から見ると、女性が髪の毛が長ければ長くほど女らしく見えるでしょう。

5. 化粧品(けしょうひん)

全然化粧(けしょう)していない人、もしくは化粧(けしょう)が派手(はで)過(す)ぎる人よりは化粧(けしょう)が上手でちょうど良い女性は美人だと思われています。それは、化粧品のおかげで顔(かお)の弱点(じゃくてん)を隠(かく)して、長所(ちようしょ)が強調(きようちよう)できるからです。全然化粧(けしょう)していない、もしくは化粧し過ぎている女性は自分をより魅力的(みりよくてき)に見せる方法が知らないのだと思われま。

6. 胸(むね)の大きさ

私にとってはあまり重要でないポイントなのに、男性によるとこれは一番大事なポイントだそうです。なぜかという、胸(むね)の大きい女性は赤ちゃんによりよく授乳(じゅにゅう)できるからです。それが自然の美(び)であると考えられています。しかし、現在では小さい胸(むね)を大きくするために女性が手術(しゅじゅつ)したりして、自然の美(うつく)しさを失(な)くす人がいると思います。

では、男性の話(わ)をしましょう。

7. 背(せ)が高い

背(せ)が低い男性より、背(せ)が高い男性はどんな状況(じょうきよう)でも女性を守(まも)ることができるというイメージがあります。女性は、一番背(せ)が高い男性ではなく、女性より背(せ)が高い人を選(えら)ぶわけです。

8. 年齢(ねんれい)

容貌(ようぼう)のポイントには関係(かんけい)ありませんが、社会的な見方(みかた)からすると、重要なポイントです。なぜかという、女性より先に大人になった男性は生活経験(けい)

いけん)があつて、責任(せきにん)を持てると思われているからです。そのため、ロシアでは男性が女性より年上である方(ほう)がいいと思われていますが、現在の若者たちはあんまり気にしていないように思えます。

9. 民族(みんぞく)

ソ連時代、様々な民族(みんぞく)は統一(とういつ)国家(こっか)の国民であつたが、ソ連の崩壊(ほうかい)の後にはそれぞれの国々の国民になってしまいました。現在、移入者(いにゅうしゃ)、労働(ろうどう)問題などの様々な社会的な問題のせいで、ある女性の彼氏(かれし)はスラブ人でなかったら、社会に非難(ひなん)を受(う)けることでしょう。

10. タトゥー

最近、男性と女性の間タトゥーが流行(はや)っているので、タトゥーがある男性がイケメンとして思われています。何かのアグレッシブなタトゥーはカッコいいと思われていますが、花や、可愛(かわいい)い者(もの)などの女らしくなタトゥーがあれば、おかしい思われています。

もちろんそれぞれの人によって好(この)みが違(ちが)うでしょう。けれども、いわゆる美人やイケメンにも悩(なや)みもあると思います。例えば、自分の格好(かっこう)を気にしている人は自分にお金をかけて努力(どりょく)して、ある程度(ていど)ナルシズムなところがあつます。あるいは、自分の姿(すがた)に満足(まんぞく)できない人は化粧品(けしょうひん)や服(ふく)だけでは満足(まんぞく)できずに、整形外科(せいけいげか)を利用(りよう)するほど自分の容貌(ようぼう)を変えたがっています。

また、美人やイケメンは恋人(こいびと)に美(うつく)しいアクセサリや勲章(くんしょう)として自慢(じまん)されてしまうことがあります。このせいで、本物(ほんもの)の恋愛(れんあい)が分からずに、ずっと寂(さび)しく感(かん)じるでしょう。

大変話が長くなつてしまひまして申し訳御座いません。

以上、ご清聴(せいちょう)ありがとうございます。御座いました。

Roman Sotnikov

Today I would like to tell you about Иван Купала. Иван Купала – is a holiday in the middle of summer. It is celebrated between the twenty-third and the twenty-fourth a не 7 июля? of June. In the time of heathenism of ancient Russians there was a demigod – К у п а л о , who was a symbol of summer fertility. People sang songs and jumped through the bonfire in his honor. Demigod Купало took its name Иван after the christening of Russ.

On this day people put on their heads chaplets of flowers and herbs, they made khorovod, a round dance , sang songs, made bonfires with burning wooden wheel on the pole in its center. Burning wooden wheel symbolized the Sun.

In these songs, which were sung in villages, Купала was mentioned as cleanly and cheerful. On the day of Иван Купала there was a tradition to read fortune. At the day girls decorate their hair with chaplets of herbs and then at night they throw it into the water, watching where it will float. If chaplet sank, it symbolized, that her beloved one ceased to love her. But if it continues to float it means that this girl will get luck in love. On this day it was taken to pour everyone with a dirty water. It was mentioned that the more often person run bathe the cleaner will be his soul. It was recommended to bathe at the dawn. Only then bathe obtain healthy power.

During the bath night people burned bonfires. They dance around it, jump through it. Someone, who jumps more successful or higher was mentioned to become lucky. The youth organized loud and funny games, races with one another and surely play in горелки.

People associated the day of Ивана Купалы with miracles. It wasn't allowed to sleep at Купала night, because all unholy being become awaken such as: witches, werewolves, ghouls, mermaids. It was mentioned that on the day of Ивана Купала witches also celebrate their holiday, trying to cause as more evil to people, as possible.

今日はイワン・クパーラについてお話ししたいと思います。イワン・クパーラとは夏至の祭りのことです。これは六月の二十三日と二十四日に祝われます。キリスト教受容前の異教時代の古代ロシアにはクパーラと呼ばれる半神半人がおり、豊穡の象徴とされていました。人々は祝いのために歌を歌い焚火の周りで飛び跳ねていました。クパーラがそのイワンの名を得たのはルス（古代ロシアの名称）がキリスト教を受容した後のことでした。

この日、人々は花とハーブの冠を着用し、円舞の一つであるホロヴォードを組み、歌い、棒の中心に燃え盛る木の輪がある焚火を作ります。燃える木の輪は太陽を象徴していました。

村で歌われたこれらの歌の中ではクパーラは穢れなく愉快であると述べられていました。イワン・クパーラの日には運勢を読むという伝統がありました。その日乙女たちは頭をハーブの冠で飾り、その夜その浮かぶところを見つめながら水の中に投げ込みました。もし冠が沈んだら、それは恋人がもう彼女を愛してくれないということを象徴していました。もしそれが浮かび続けたならそれは愛の中で彼女が幸せを掴めることを意味しています。

この日には皆に汚い水を注ぐことが行われました。より多く入浴すればするほど、より魂が清くなる、そう言われていました。夜明けに入浴することが推奨されていました。入浴の後のみ健康的な力が得られるのです。

入浴の夜の間人々は火を起こしました。その周りで彼らは踊り、それを飛び越えました。より上手く、より高く飛べた人が幸せになれるのでした。若者は派手で面白い遊び、競争を催し、鬼ごっこなどで遊んでいました。

人々はイワン・クパーラの夜を奇跡と結びつけていました。イワン・クパーラの夜に眠ることは禁止されていました。なぜなら魔女、狼男、墓荒らしの悪魔、人魚など邪悪な者達が起こされてしまうからです。イワン・クパーラの夜には魔女もまた祭日を祝います、できるだけ人々にもっと悪さをしてやろうと企んでのことですが。

第三章 滞在記録

8月3日(月)

(文責：石川智也)



今年も日露学生交流会夏の大会イベント「訪日企画」がやってきた。日本とロシア、両国の相互理解を目的として 20 年以上も続いている企画である。

訪日期間中は都内散策、ディスカッションやホームステイなどを行い、10 日間にわたって生活を共にし、交流を深める。

今年にはロシアのノヴォシビルスクから 6 人の学生が参加した。

ロシア人たちが日本に到着したその日は水道橋駅近くにてウェルカムパーティーを開き彼らを歓待し、親交を深めた。日常生活では授業以外でロシア語を使う機会がほとんどないため、実際に自分でロシア語を使ってみる良いチャンスであり、とても新鮮なものだった。私自身もこの 4 月から学び始めたロシア語を使い、それが通じたときはとても嬉しく、気持ちの良いものだった。伝えられないようなことは先輩が通訳してくれたり、英語を使ったりなどしてコミュニケーションをとることができた。実際にロシア語を使ってロシア人と話すことで「もっとロシア語を勉強したい！もっとロシア語を使いたい！」という気持ちがより強くなった。また、「あなたの好きな歌は何？」という質問をしたら、アメリカのバンドグループが答えに返ってきて、政治上では疎遠であっても国民のレベルではそんなことないんだな、と実感することができた。

8月4日(火)

(文責：番場安花莉)



強い日差しが照り付ける中浅草散策に行った。

まずは日本文化体験の一環として浅草の花やしきの近くにある施設で忍者体験をしてきた。参加者全員は忍者のはちまきを頭に縛り付け、模擬刀を使ったパフォーマンスや手裏剣をつかったゲームをするなど日本でも滅多にできない体験をすることができた。

初めのうちは日本人を含め皆初めての忍者体験だったので戸惑っていたが、時間が経つにつれそれぞれ緊張もほぐれ十分に楽しむことが出来た。この忍者体験はロシア人だけでなく日本人も初めて体験したことであり、ロシア人と日本人双方にとって珍

しく貴重な日本文化体験になったのではないかと思う。

忍者体験の後は近くにあったレストランで昼食をとり、昼食後はレストランから雷門に行く途中で扇子や風鈴などの伝統的な日本のお土産を買ったりして食後も楽しい時間を過ごすことが出来た。

そして雷門での記念撮影が終わると、個人行動になり浅草寺向かったり仲見世通りでお土産を買ったりするなど浅草を満喫した。

この日の浅草散策の企画が終わった後に、私含め日本人四人はロシア人二人を連れて横浜の花火大会に行ってきた。ロシア人の二人は浴衣に着替え、たこ焼きなどを食べながら次々と打ちあげられる花火を眺めた。ロシア人によると二人の出身地であるノボシビルスクでは日本のような花火がメインになる行事はないそうだ。町の日には花火が打ち上げられるものの、日本のように長時間打ち上げられることはなくほんの10分で終わってしまうそうだ。それなのでこの横浜の花火大会はとても素敵な思い出になったと話してくれた。

この日は浅草散策や忍者体験など様々な形で日本文化を体験でき、ロシア人だけではなく日本人にとっても素敵な日になった。

8月5日(水)



この日は神奈川県での散策に行った。大船駅に集合し鎌倉・江の島パスを購入して、鎌倉の散策をしてその後海水浴をした。鎌倉に出発する前に大船駅で食事をとり、ショッピングを楽しんだ後、みんなで電車に乗りまず鶴岡八幡宮に参拝に行った。お参りの前にお清めの方法をロシア人に教えお参りに行った。ここではお参りだけでなく、おみくじを引いたりした。おみくじでは驚いたことにロシア人二人が大凶を引いてしまうなど、鶴岡八幡宮ではある意味貴重な体験をすることができたようである。他のロシア人は「おみくじには健康や仕事など様々なことへのアドバイスが書かれていて、おみくじはとても面白いね。」と話してくれた。鶴岡八幡宮から高德院までの間はショッピ

(文責：番場安花莉)

ングを楽しんだ。特にどんぐり共和国というジブリ関係のおみやげを買うことのできるお店は人気であった。

その後高德院に向かい大仏を見に行った。大仏の前で大仏と同じポーズで写真を撮るなど各々楽しむことができた。さらにそこでは「どのようにこの大仏は作られたのか。」などの歴史的背景を聞くものや「なぜこの大仏は何百年の間守られ続けたのか。」など日本文化と結ぶつける質問など、大仏に関する多様な質問を受け私にとって改めて日本の歴史・文化について考えさせる良い機会になった。

この日も猛暑だったためリフレッシュに高德院の後は駅の近くにある海に行った。ノボシビルスクには川は流れているものの、海はないためロシア人たちは大はしゃぎで、服を着たまま海に入ってしまうなど江の島の海を本当に満喫している様子であった。浅草の他に日本の伝統文化を体験することができただけでなく、日本の自然を体感できた日貴重な日になった。

8月6日(木)



この日はファミリーデーということで私と姉とカーチャと友人の4人で朝早くからディズニーシーに行ってきました。カーチャに「ディズニーシーのショーと、アトラクションのどちらを優先したい？」と聞いたところ、アトラクションに興味があったようなので、そちらを優先させた。ディズニーシーの入口のゲートをくぐると、ディズニーのキャラクターたちが出迎えてくれた。私もカーチャはすごく盛り上がり写真を撮りまくった。その後向かった場所はマーメイド

(文責：溝口莉衣奈)

ラグーンという場所だ。そのカラフルな建物に興味津々でここでも写真を撮っていた。お昼頃からターニャと石田君と合流して回った。夏ということで、ディズニーシーのパレードでも水を大量に使っていた。私たちのほうに水を撒いてきたため全員水浸しになりながら楽しんだ。ディズニーのグッズが売っているショップでは、カーチャは猫のキャラクターが気に入ったようで、そのキャラクターのキーホルダーを買っていた。昼食は、アラビアンコーストの中のカレー屋さんでチキンカレーを食べた。

その後もたくさんのアトラクションに乗った。タワー・オブ・テラーや、センター・オブ・ジ・アース、レイジングスピリッツなど絶叫系のアトラクションを気に入っていた。一番楽しかったアトラクションは何かと聞いたらタワー・オブ・テラーだといっていた。

アトラクションの待ち時間は暑くて長かったが、その間にロシアのことや日本のこと、ディズニーシーの印象を聞いたりすることができたので、良い機会となった。帰りには日本人もロシア人も遊び疲れてへとへとになっていたが、とても楽しく、幸せな時間を過ごすことができた。

8月7日(金)

(文責：溝口莉衣奈)



訪日企画5日目は午後からの企画であった。テレコムセンター駅に集合し、科学未来館に向かった。最新の日本の科学技術を見学する良い機会となった。日本人でも難しいと感じる内容の展示もあったが、写真を撮ったり、実際に体験してみたりと楽しんでもらえた。

そのあとは二手に分かれて行動した。ロシア男性二人は科学未来館に残りアンドロイドのASIMOのショーをみて、ロシア女性陣はショッピングモールに移動した。移動の途中ではセミの抜け殻を集めてお互いに付け合っ

たり、生きたセミを捕まえてそのセミの撮影会をしたりと、意外なところで盛り上がった。セミの抜け殻を集めてペットボトルに入れているロシア人女性を見たときはなんだか不思議な気持ちになった。ロシア人に聞いてみたところ、ノボシビルスクにはセミが住んでいないとのことである。ショッピングモールにつくと目の前に実物大のガンダムが立っていた。ガンダムを見たとき、これはロシア人が大喜びするだろうな！と思ったが思いのほか反応せず、普通に記念撮影をして終わってしまった。セミのほうがり盛り上がったように感じる。ショッピングモールではロシア人女性たちは実際に試着をしたり、本気で買い物をしていた。やはり女性はどこの国でも買い物が好きなんだなとしみじみ感じながら一緒に買い物をした。夜ごはんはショッピングモールの一階にあるお店で食べた。たこ焼きやお好み焼きなど日本の食べ物を堪能してもらい、この日の企画を終えた。

8月8日(土)

(文責：楠秀大)



訪日企画6日目、丁度中間地点であるこの日はまず、東京大学駒場キャンパスでディスカッションを行った。

ディスカッションのテーマは、「日本とロシアの宗教について」と「魅力的な異性について」の2つだった。ディスカッションは、両国のメンバーが各テーマについて発表を行い、その後全体を3つのグループに分けて話し合う、という流れで行った。宗教の話題に関して私が驚いたのは、私のグループにいた3人のロシア人全員が、無神論者だが神を信じる人達を否定しないという立場であったことだ。これは多くの日本人の立場とよく似ているように感じた。実際、ロシア人の発表によると、ロシア人の12%が無神論者であるという。それでも、正教はロシア人の生活に大きな影響を及ぼしているそうだ。2つ目のテーマに関する

ロシア人の発表は見た目に焦点を当てたもので、男女それぞれに関してどのような見た目の人が印象が良い悪いかをわかりやすく説明してくれていた。それによると、異性への魅力の感じ方は両国間で差がないようであった。ただ、魅力的な男性の1つの特徴として「タトゥーをしていること」が挙げられていたのは驚きだった。なんでもロシアの若者の間でタトゥーが流行っているからだという。グループ毎のディスカッションでは、多くの人達が外見の他に重視する点として、話が合うことなどの内面を挙げていた。私は大学に異性が極端に少ないことを述べたが、ロシアの大学では理系学部であろうと男女比は半々近くに落ち着いているようだ。

ディスカッションの後は渋谷で昼食をとり、渋谷周辺の散策を行った。昼食はお好み焼き屋と回転寿司屋の2グループに分かれてとった。その後の散策では、私は「鯛焼きを食べたい」と言うロシア人に同行した。鯛焼きと一緒にたこ焼きも食べたが、ロシア人はどちらも美味しいと言っていた。ロシア人が喜んでくれて私も嬉しかった。道中沢山話すことができたし、ロシア人にとっても私にとっても良い思い出になったと思う。

8月9日(日)



この日は私とエカチェリーナは埼玉県西部にある長瀬に観光に行った。せっかく埼玉県の田舎にホームステイに来ているのだから、ビルに囲まれた日本の都市だけでなく自然に囲まれた町を観光できたらさらに訪日が楽しくなるだろうと考えた。そこで候補に挙がったのが家から遠くない自然に恵まれた埼玉県西部にある長瀬であった。

まず最初に長瀬ライン下りをした。このライン下りとは小さく細長い伝統的な日本の船で荒川を下る長瀬の観光名物である。これはエカチェリーナにとって初めての経験でとても風景は美しく貴重な体験ができたと言ってくれた。船から降りると、そこには国の天然記念物に指定されている長瀬

(文責：番場安花莉)

岩畳が広がっており船を降りた後も楽しい時を過ごすことが出来た。

その後国指定重要文化財で江戸時代中期に建てられた養蚕農家宅(長瀬町郷土資料館)に見学に行った。ここでは建物や道具などを通して日本の時代の流れを感じることができた貴重な経験になった。

最後にそこから近くにある神社の宝登山へ参拝に行った。宝登山には日本武尊が禊を行ったと伝えられている池が残っており、非常に古い歴史がある神社である。エカチェリーナから神社に関する質問に答えられなかったこともあり、自分が日本の宗教に関して知らないことが多すぎると痛感した。

ファミリーデーでは日本の自然を体験し、住宅を通して日本の歴史を学び、神社を通して日本の宗教を体験できた良い経験になったのではないかと思う。さらに私も日本文化について気づかされたことも多く、私自身も良い経験ができた。

8月10日(月)



この日は午前中、上智大学でディスカッションを行った。テーマは、「日本とロシアの友好関係」と、「日本とロシアの食文化」であった。8、9人ずつのグループを3つ作り、ロシア人と日本人で意見交換を行った。まず、日本とロシアの友好関係についてです。日本とロシアの友好関係を深めていくためには、日本人から見た、ロシア人はこわい、などといった固定観念を変えるところから始めなければならず、日本でロシアに関連したテレビやラジオ番組を増やしたり、ロシア人と交流するサークルなどをもっと増やしていく、などといった解決策が挙げられた。また、政治的に見ると日

(文責：田中真梨乃)

本とロシアの間には北方領土問題があり、なかなか解決されていないため、これからも解決は難しいだろう、といった意見も出た。次に、日本とロシアの食文化について話し合った。こちらのテーマについては、ロシアでは平皿に料理を盛り、手には持たず食べるけれど、日本では皿が深いため、皿を手を持って食べることがマナーとされている、などといったテーブルマナーについてや、ロシアでは甘いものだけが、お菓子と呼ばれるのに対して、日本ではしょっぱいものも、お菓子と呼ばれる、などといった、お菓子の定義など、各グループで様々な意見が出て、新たな発見が、たくさんありました。この日は午後から、東京ドームシティに行く予定でしたが、天候が優れないため、カラオケに変更になった。カラオケでは、ロシア民謡をみんなで歌ったりと、楽しむことができた。

8月11日(火)

(文責：櫻庭亮太)



8日目(8月11日)は最初に明治神宮を参拝した。雨に見舞われることもなく、むしろ強い陽射しと気温が厄介な日だったが、明治神宮の境内は木陰が多いこともあって涼しく、気候の割には楽に過ごすことができた。参拝した後は土産屋でお土産を探したりもした。また、このとき一人のロシア人が「東京ドームに行きたい」ということで全体から分かれるということもあった。

明治神宮のあとは数グループに分かれて原宿の街を散策した。少し驚いたのはロシア人が百元ショップを気に入っていたことだ。ロシアにこういった店はあまりないのであろうか。また、小豆のアイスは不評であった。ロシアでは小豆はあまり食べられず、子供くらいしか食べないのだとか。一方でクレープは気に入ったようだった。夏休みということもあって人通りがかなり多かったが、色々な店を見物することができた。また、私が同行していたロシア人男性が途中で見かけた浴衣姿の日本人女性と写真を撮るということもあった。

夜には上智の近くで明治神宮外苑花火大会を見物した。ロシア人女性たちは浴衣を着用しての参加であった。色合いや形が多様な日本の花火はロシア人にも好評のようだった。また、花火大会が1時間もあることにも驚いていた。ロシアでは15分程度しか行われないうだ。

8月12日(水)



訪日企画の最後の日だった。毎日さまざまな日本の文化や施設を体験してきて、各々疲れが出てきているかと思った。しかし、最初に東京タワーに行ってみたところ、みんな楽しそうに見学していて、まったく疲れを感じさせなかった。展望台に登って、下が透けて見えるガラスの前に立って写真を撮ったりし、珍しい経験だったからであ

(文責：弓取奨平)

ろうかロシア人もとても喜んでいて。展望台を楽しんだあとは一度下に降りて、勇気のある人たちは期間限定で開催されているホラー映画を見た。その他の人はお土産を見たりなどして楽しんだ。次に、秋葉原に移動した。数グループに分かれて自由行動になり、主にショッピングを楽しんだ。日本のアニメのフィギュアや雑貨は人気があり、とても興味深そうに見ていた。各々が買いたい物を買うことができ、満足したところで、一時間半程度の自由時間は終わり、駅で再集合し、夜のフェアウェルパーティーのお店に向かった。夜は板橋にあるお店に行き、そこで日本の手遊びや早口言葉を教えたりして、みんなで楽しく最後の夜を過ごすことができた。あっという間に訪日企画はすべて終了してしまい、空港にお見送りする人以外とは会うのは最後だったため、名残惜しそうにしながらも最後は日本らしく一本締めをして解散となった。訪日企画では海外の自分たちと同じくらいの年の学生が日本のどんなこと、どんな場所に興味があるのかなどがわかっておもしろく、とても良い経験になったと思う。

8月13日(木)



とうとう訪日企画も最終日を迎えた。この日は朝から曇り空で時折、雨がぼつり、ぼつりと降っていた。まるで私たちの別れを惜んでいるかのように感じられた。最終日は特に計画された企画は無かったので空港での集合時間まで各ホームステイ先で思い思いの時を過ごした。今年、ノヴォシビルスクからやってきた学生のメンバーというのは昨年訪口でノヴォシビルスクを訪れた際に出会った学生が大半であった。そのためコミュニケーションという面では取りやすかったのではないと思う。成田空港へは午後1時30分に集合した。その後、ロシア人の希望により、皆で空港内のスターバックスへと向かった。ロシアにはない抹茶クリームフラペチーノや、抹茶ラ

(文責：溝口莉衣奈)

テを頼んでいた。これがロシア人にとって日本での最後の食事となった。ドリンクを飲んでいるときに、ナターシャが「もうすぐ飛行機が来るから急いで！」という声により、みんながわれに返り急いで支度を始めた。まだ最後の集合写真を撮っていなかったため、近くにいた人に頼んで、その間に日本人が一人一人のロシア人に色紙を渡し、写真を撮ってもらった。そのあとは別れを惜しむ暇もなく、走ってゲートまで行った。

ゲートについた後、わずかな時間でハグをしあい、別れの言葉を言い終えた後、ロシア人たちはゲートの奥へと入っていった。見送るまでの間、ばたばたとしていてお別れだという実感が湧かなかったが、ロシア人たちの姿が見えなくなってから、寂しさが込み上げてきた。

この10日間、楽しいことも大変なこともたくさんあったけれど、参加したすべての人や関わったすべての人にとって最高の思い出となり、今後の日露関係を良好にしていくいったんとなれば幸いである。

ありがとうございました。

第四章 全体感想

浅野 晨

八月三日から十三日の十日間、私は所属する日ロ学生交流会の訪日企画に参加し、その活動の一環としてロシア人をホームステイという形で受け入れました。その間、感じる事考える事など多々ありました。まず、何よりも思ったのは大変だということでした。自分以外の誰かの世話をするのは生まれて初めてで、ロシア人の移動や食事や予定確認などに責任を負うこともあって途中からはひたすら自分の頼りなさや未熟さに悩まされました。例えば、私が担当した女性はとてもヘビースモーカーだったので行く先々で喫煙所を探さなければならず、寺の境内などで喫煙したいと言われた時は呆然として対応することができませんでした。しかし大変ながらも本当に充実した十日間を送る事ができ、何より友情を育む事ができたと思います。ロシア人と談笑しながら政治についてお互いの意見を交わしたり、夜の海辺で散歩しながら日ロ間の恋愛観の違いについて語ったり、十日間の間経験した一つひとつの思い出は私のとても大切な宝物です。

皆上 葉月

8月3日から8月13日にかけて訪日企画が行われた。今年はノボシビルスクから来たロシア人に東京周辺を案内した。今年は総務幹事としてロシア人のビザを取り、また、去年訪露に参加してお世話になったロシア人との再開と楽しみに、何か月も前から心待ちにしていた。私が参加したのは1日目のウェルカムパーティー、2日目の浅草散策、5日のテレコムセンター・お台場散策、9日目の明治神宮見学、10日目の東京タワー・秋葉原散策・フェアウェルパーティーと空港お見送りだった。二回目の訪日企画、また、去年訪露で仲良くなったこともあり、去年より楽しく、深く交流できたと思う。特に今年は私たち二年生がメインとなって企画しているということもあり、ロシア人を受け入れている人の家に一緒に泊まりに行ったり、午前中の余った時間でショッピングへ行ったり、比較的自由に行動できた気がします。しかし、ロシア人が各々行きたいところに行き、ファミリーデーではないのにせっかく企画班を立ててくれた予定がつぶれるところになったのは反省する点だと思いました。

二年目の訪日企画で私たちが企画していかなければならず、訪日が始まる前からビザで手こずってとても大変だったが、ちょっとした雑談の中でもロシアの文化を知れたし、日本の文化も紹介できてとても実りのある10日間だったと思う。最後の訪日企画だったが、ロシア人も日本人もお互い楽しめたと思う。

番場安花莉

「番場さん、今年の訪日でロシア人の受け入れを頼んでもいいかな？」

この言葉を聞いた時、東京から電車で2時間も離れたところに住んでいる私は最初ためらいの気持ちがありました。長時間の移動の大変さを私は身をもって理解していたので、「長い移動時間のせいでかなり疲れさせてしまうのではないか。」とかなり不安な気持ちがありました。

しかしながらそんな状況の私にホームステイ受け入れの話が入って来たのは何らかの縁なのかもしれないと考えるようになりました。そして「せっかくの機会だし受け入れてみよう。長い移動時間にはなって負担にはなるけど、その移動時間でたくさん会話ができるし、お互いをより深く知ることができる唯一の機会だ。」と決心し今年さらに人生で初めてホストシスターになることにしました。

電車の中ではたくさん語り合いました。実際にロシアに住んでいないとわからないがたくさんあり、勉強になることが多かったです。話の中で私はモスクワだけでなくノボシビルスクについて知ることができて、ロシアの多様性を改めて認識することができました。そこで私は今までロシア全体を話してしたつもりでも、実は私が話していたロシアとはモスクワやペテルブルグなどの一部の都市に絞られていたのだと気が付いたこともありました。

このことから「この話題はどの視点で語られているのか。」を意識して、様々な角度から物事を見る大切さを認識しました。

長い移動距離は自分の人生観を語ったり、冗談を言って大笑いをしたり電車での移動を楽しむことが出来ました。さらにビルに囲まれた東京と田園風景に囲まれた私の家を行き来したので、ステイに来たエカテリーナにとって日本の都市と田舎を体験できたという良い思い出になってくれればいいなあと思っています。

この訪日はたくさんの方の協力と助けによって成り立っており、私自身たくさん仲間に助けられ、感謝の気持ちでいっぱいです。この10日間本当に素敵な経験をする事が出来ました。

小須田祐実

今年の訪日企画は、なかなか予定が合わず6日目しか参加することができませんでしたが、その日のディスカッションは興味深いものでした。

私たちはお互いの国の宗教や、好ましいとされる異性のタイプについて話し合いました。特に私が興味深く感じたのは、ロシア人に無神論者や不可知論者が多かったことです。ちなみに不可知論者というのは、私も初めて知った言葉なのですが、神の存在は否定しないが神を認識することはできないという考えを持つ人のことであるそうです。このような人々が多い理由の一つとしては、ソ連時代に宗教が弾圧されていたことがあげられるよう

です。宗教を信じる人が少ないというのは日本との共通点だと思われませんが、その背景は国によって異なることが分かりました。この後に参加した訪日企画では、教会を訪れたり、宗教についてロシア人学生と少し話したりする機会がありましたが、その前にこのディスカッションでロシアの宗教事情について知るきっかけを得ることができ、よかったと思っています。

清水真伍

2015年度の日露学生交流会訪日企画ではノヴォシビルスクから六名のロシア人を招致、8月3日から13日の日程で東京とその周辺の地域を紹介しました。

今年の訪日企画では多くの反省点が挙げられるのが現状です。一つ目はロシア人達の希望と日本人が立てた計画の不一致です。ロシア人が計画にない場所の見学を希望し、団体での計画には参加しないと主張する場面が多く見られました。二つ目はロシア人日本人全体での宿泊企画の失敗です。例年ロシア人、日本人らが宿泊施設にて語り合いながら一晩を過ごすという企画が行われています。しかし今年は宿泊施設を確保できず、下宿をしている日本人学生の家泊まるという方針が立てられました。しかし予想以上に部屋が小さかったため、宿泊企画当日にその計画を断念するという結果になりました。三つ目はホームステイ先のWi-Fi設備の問題です。多くのロシア人がWi-Fiの使用を希望しました。しかし日本人のホームステイ受け入れ側がWi-Fiそのものについて詳しい知識がなく苦勞する場面がいくつか見られました。

日露学生交流会訪日企画の目的の一つは会員たちのロシア人との交流です。ロシア人が事前に立てた計画に参加しなければこの目的は達成されません。来年は事前にロシア人側に東京周辺の名所をより詳しく提示し、彼らの希望する見学先をより明確に把握することが必要です。また計画に沿って行動しなければならぬことを事前にロシア人側に伝えることも必要です。さらにはロシア人の希望を許してしまいがちなホームステイ受け入れ側も計画の順守を念頭におかなければなりません。第二にロシア人がより快適に過ごせる環境の用意を徹底しなければなりません。宿泊企画については、宿泊先の事前のチェックが不可欠です。またWi-Fiについては、ホームステイ受け入れ側が自宅のその設備の有無の確認が必要です。設備がある場合はその使用方法、ない場合はそれを明確にロシア人に説明する必要があります。

今年度の訪日企画では以上のような反省点が見られました。しかしいずれもわずかな工夫で改善可能なものです。今年の経験を来年の訪日企画で活かすよう努力します。

民岡龍己

本年度は、ロシア第三の都市であるノヴォシビルスクから6名のロシア人を迎

えました。僕自身は、昨年度の訪露企画でノヴォシビルスクを訪問しました。そのときに知り合った方々と再び会うことができるととても嬉しく思いました。1年前より自分のロシア語も上達し、ロシア語の能力において少しは成長した部分を見せられたかと思います。また、日本語を勉強している彼らに、少しではありましたが日本語や日本の文化を紹介し知ってもらえました。例えば、忍者体験をしたり神社を参拝したりお好み焼きを食べたりなど、日本でしか体験できないような様々なことを彼らは経験しました。そのことによって、より日本についての理解が深まったのではないのでしょうか。ただ、今回の訪日企画だけでは日本の良いところを紹介しきれていないように思います。ですので、彼らには必ずもう一度日本に来て、東京以外の都市だったり今回訪問しなかったテーマパークなどに足を運んでもらいたいです。そのときは、今回の縁で自分たちが案内をしたいです。

高川真由子

私は8月9日から13日の5日間、ホームステイの受け入れをした。現在私は実家を離れてワンルームマンションに一人暮らしをしており、また家も都心にあまり近くないため、受け入れたターニャにとってあまり快適な生活ではなかったかもしれない。しかし彼女は不満などを言うこともなく、いつも「楽しい」と言ってくれた。彼女とした他愛のないおしゃべり、花火大会で嬉しそうに浴衣を着ていたこと、最終日に一緒にブリヌイを作ったこと。忘れられない大切な思い出の数々である。日ロ学生交流会はロシア人たちと友好的に交流することを目的とするサークルであるが、このホームステイの受け入れは間違いなくその目的を全うすることができる活動だ。私とターニャは友達になることができたし、また今度は私がノヴォシビルスクにあるターニャの家に泊めてもらう約束もした。外国を学ぶにあたり、実際にその国に住む人の顔を思い浮かべられるということ、その国に住む友達を持つことは非常に大切であると思う。私はこのホームステイ受け入れを通してよりロシアを身近に感じることもできたし、またロシアに対してさらに興味が湧いた。ロシア語学習に対するモチベーションも上がったように感じる。5日間という短い期間ではあったが、彼女を受け入れることができると本当に良かったと思っている。

勝又菜摘

私は訪日企画自体には予定が合わず、あまり参加することができませんでした。しかし、企画外の花火大会に行ったりもしたので、それなりにロシア人の子達と交流することができました。去年と同じくロシア語をあまり話すことは出来ませんでした。ロシア人の子達の言っていることは去年より理解できて嬉しかったです。でも、やはりロシア人の子達の日本

語の方が格段に上手で、感心すると同時に良い刺激になりました。言語の面でも得るものはありましたが、やはり同年代のロシア人と実際に話したり、ご飯を食べたりして時間を共有できたことはとても良い経験になったと思います。特に花火大会で浴衣を着て嬉しそうにしていたロシア人の女の子たちがとても印象に残っています。ディスカッションで実際のロシアの様子やロシアにおける日本の印象などを聞くこともでき、とても有意義な企画でした。来年も良い訪日が出来るようにお手伝いをしていきたいです。

荻原崇之

今回の訪日企画は自分が精神的にも語学能力的にも少しは成長したということを確認できる場であった。去年 1 年生で参加した訪日では自分の人見知りとロシア語の自信のなさが重なって、あまりロシア人と交流することができなかった。しかし今回は手ごたえや印象が違っていた。精神的な面では、幹事という立場についてのもあるが、後輩ができ責任感も生まれたのでスイッチが入り積極的に話しかけることができた。また語学的な面でも簡単な表現なら自信を持って使うことができた。そしてなにより去年よりも企画を楽しむことができた。去年は日本人とべったりで気持ちが後ろ向きだったが、今回はロシア人との交流も企画それ自体にも前向きに積極的に取り組めたとする。本当に楽しかった。サークルのメンバー、特に企画部の人たちには大いに感謝したい。また後輩のみんなには来年の訪日にも参加することを勧める。同じ企画を 2 度経験することで去年と比べ確実に自分が成長したことが分かるはずだ。ぜひ積極的に参加してほしい。

石田茂年

8/3～13、日本ロシア学生交流会の目玉企画の一つ訪日企画が行われました。今年はノヴォシビルスク国立工科大学から 6 名の学生を東京に招き、10 日間アテンドしました。私自身も 1 名をホームステイで受け入れ、企画全日に参加しました。東京の有名な観光地や鎌倉などをまわり、観光、交流ともに存分に満喫しました。また 10 日間のうち 2 日間を使い、テーマを決めて互いの国の文化を紹介し合うディスカッションも行いました。宗教、食文化、魅力的な異性の基準、最後に日露が国として歩み寄るために何ができるかについてを日本側はロシア語で、ロシア側は日本語で話し合いました。2 日間とも非常に盛り上がり、とても有意義なものとなりました。

こういった企画に加え、受け入れをしたロシア人とはとても仲良くなることができ、当に生涯の友になったと言ってもいいかもしれません。それだけでもこの訪日企画が有意義なものであったと思います。こういった草の根の交流でお互いを理解することが、ひいては日本とロシアの関係改善に繋がりをうめるのではないかと感じました。日本人、ロシア人の学生共にこの 10 日間の貴重な体験を将来に活かすことができたり、何かのきっかけになれば良いと

思います。

東谷友里恵

私にとって、今年は2年目の訪日でした。去年は一人のロシア人をホームステイ先として受け入れ、今年は企画幹事として毎日の企画を進めました。(正確にはその日の企画担当者の手伝いをしました。)おそらく、2年とも全日参加したのは私だけかと思います。一日ももれなく満喫したということです笑!今年の訪日を終えて、先輩の偉大さとロシア人の性格の違いとホームステイで受け入れていない少しの寂しさを感じました。年々企画をよくするために前回の反省点等を出して引き継ぐのですが、去年の反省「ロシア人が疲れてしまうから企画を詰め込みすぎない」は、今年のロシア人には通用しませんでした。とにかく元気!疲れを考慮して後半の企画を午後集合にしても、彼らは午前中に買い物や海に行っていました。日本をより満喫してもらえたようで嬉しいですが、びっくりしました。また、今年はほぼ毎日企画に変更があり、私自身反省するとともに去年予定通りに進めていった先輩に尊敬の気持ちを持ちました。大変なこともありましたが、2回の訪日で少し別の楽しみ方を出来て私は満足です。私は今年で最後でしたが、来年の訪日も有意義なものになるように、しっかり引き継ぎたいと思います。

中谷早希

私は8/12にロシア人の日本観光最終日に訪日企画に参加しました。昨年はスケジュールが合わず参加することができなかつたので初めての訪日参加でした。この日、私は企画の幹事となっていたので、「自分は上手くロシア人をまとめることができるのだろうか?」と不安になっていましたが、いざ1日が始まるとあっという間でした。

この日は東京タワーと秋葉原散策、そしてフェアウェルパーティーの予定でした。まず東京タワー観光では夏ならではの行事であるお化け屋敷にロシア人と行けたことが印象強いです。このお化け屋敷でビックリしたのは、ロシア人はお化け屋敷の中でも歩く速度がとても早かったことです。大抵日本人は恐怖心から自然と歩く速度が遅くなりがちですが、ロシア人は普段と変わらない速度で進んでいくので、私たち日本人もつられて早く歩き、あまり怖さを感じなくてすみました。またロシア人は、やはり日本人とは違い自分のやりたいことや行きたいところをはっきりと口に出します。このことが企画の幹事であって私にとっては少し困ることでありましたが、文化の違いを肌で感じることでとてもいい機会でした。フェアウェルパーティーではロシア語と日本語の早口言葉をお互いに言い合うなど和気あいあいと交流を深めることができました。

今回の訪日企画で自分のロシア語の拙さやロシアに対してまだまだ知らないことがたくさ

んあると気づくことができました。ぜひ今後の学習に生かしていきたいです。

児玉丈爾

私は今回の訪日企画において、初日のウェルカムパーティ、7日のお台場散策、8日のディスカッション・渋谷散策、11日の明治神宮・原宿散策・花火大会鑑賞に参加しました。ノボシビルスクから受け入れたロシア人たちのグループ構成は日本語能力や年齢、性別において非常に多様性に富んでいたもので、単なる外国語の使用だけにとどまらず総合的なコミュニケーションが求められる活動となりました。また二年生である私はこの一年間を通して、昨年度の訪日をはじめとする様々な活動のなかですっかりロシア人の気質や慣習についてよく知っているつもりでしたが、相互理解のためのディスカッションを行ったことで底知れぬロシアの奥深さを再認識させられました。私が担当した企画の神宮外苑花火大会は、予定の観覧場所からどの程度花火が見えるのかわからずハラハラしていましたが、多少遠いながらもゆっくり座って見ることができたので浴衣を着たロシア人たちも満足げの様子でした。今年も企画を完徹することができて心から嬉しく思います。

横江智哉

今年度も訪日企画には途中から参加し、訪露のために最後まで参加できないという中途半端なものとなってしまったが、それでも参加した日程に関して言えば、十分楽しむことができたのではないと思う。しかし、今年度は特に遅刻や予定変更、別行動が度重なるという問題点も見られた。このことは来年度以降改善する必要があるだろう。または、ロシア人側と早いうちに連絡が取れるようであれば、あらかじめロシア人の希望を聞いておく、というのも一つの手かもしれない。

私はディスカッションの「日本とロシアの宗教について」を主に担当したので、これについても一つ付言しておく。ディスカッション自体はロシア人も積極的に参加してくれたようなので、成功したといえよう。また、文化紹介をディスカッションと絡める形にしたのも昨年度と比べて良かった。しかし、もっと前から綿密に準備を進めていれば、より活発な議論が期待できたのではなかろうか。

来年度以降、今年の問題点を改善し、訪日企画がさらに良いものとなるよう期待する。

緒方美友

理系の単科大学に在籍する私はロシア人と直接交流する機会が今まで無かった。従って、今回の訪日企画への参加はロシア人と直接話すことが出来たという点で大きな刺激を得ることが出来た。

特に 2 日間行われたディスカッションでは多くのことを考えさせられた。他の会員に比較しロシアの知識に乏しい私は、日本における普通の人々のロシアに対する関心の低さを改めて痛感した。それは、今の日本でロシアに関する情報を得ようとするには積極的に努力する必要があるということだ。日ロ友好の為に、この努力する必要性を低くし、一般の人々のロシアに対する垣根を無くしていくことが重要であると感じた。

また、ロシア語が未習の私にとってロシア人と話すこと自体にためらいを感じ、非常に悔やまれる結果となった。幸運なことに日本語が堪能なロシア人が多く会話を交わすことはできたが、ロシア語を学習しようと改めて思った。

個人的な反省点は多かったが、一参加者としては非常に楽しく充実した日々であった。

中尾 伶

私はこの夏にロシア人を、ほとんど好奇心から受け入れました。以前、フランス人を二人受け入れたことがあったので外国人を受け入れることに抵抗はありませんでした。

私が受け入れた方はボーバさんで、彼はとても人柄がよく人懐こい方で、私が以前に持っていたロシア人に対する暗くて少し怖いというステレオタイプは悉く壊されました。

そのステレオタイプはおおよそ国家体制の違いから生じたものであって、政治的な要素を多く含んでいました。

しかし、実際に「人」対「人」のレベルでの交流をしたことによって「その人がその国の人だからこうである」という固定観念を排すことができ、「その人」の個性を重視することができました。

この事はどの国の人に対しても当てはまることであると認識しました。

以前からそのようなことは頭では分かっているつもりでしたが、実感することによってより深く理解しました。

今回の交流を通じてこのような大事な認識を再確認することができ、とても有意義であったと思います。

小金井 順子

今回のこの訪日が、私にとっての初めての日露学生交流会での活動になりました。4月にロシア語学科に入学したばかりで、まだロシア語も全然話せなく、さらに長い間あまり外国人と話すことがなかったのでどうアプローチしていったらよいのかわからないまま 3 日間の交流に参加していました。なので、私がロシア人と直接話したりしたことはほとんどなかったのですが、カラオケでロシアの

お菓子を食ったり、ロシア人が話すロシア語の中に知っている単語が聞こえてきたりなど、ロシア文化や生のロシア語に触れ、これからもっとロシア語を頑張ろうという気持ちにさ

せてくれる出来事は多かったです。このような経験だけでもこの交流プログラムに参加した価値があったと思います。まだまだ未熟ではありますが、秋学期からさらにロシア語を頑張って、来年の訪日につなげていきたいと思っています。

櫻庭亮太

私は今回初めて訪日企画に参加いたしました。外国を訪れて現地の人々と交流したことはありましたが、外国の方を日本に招いて数日間行動を共にするという経験はなかったので、この訪日企画は私にとって非常に新鮮な催しでした。私は現在ロシア語を学んでいる最中であるためロシア人と直接コミュニケーションを取ることは殆ど無かったのですが、先輩方の通訳により間接的ながらもやり取りを行うことはできました。それによって、わずかながらではありますが彼らの人となりを知ることもでき、ロシア人の好みなどを垣間見ることができました。今回の訪日企画を通じて、私は外国人との交流によって得られるものや、その際に語学力が必要不可欠であることを強く実感いたしました。

田中真梨乃

私は、ウェルカムパーティー、ディスカッション、原宿散策の企画に参加しました。まず、訪日企画 1 日目のウェルカムパーティーでは、水道橋駅に集合し、ロシア人を交えて食事を取りました。魚料理がメインで、お箸を使って食べる料理でしたが、ロシア人の人たちも、上手にお箸を使えていて、驚きました。ロシア人の方は、日本語を話すのが上手な人が多くて、たくさんのお話をすることができました。次に、ディスカッションの日ですが、この日のテーマは、日本とロシア間の友好関係についてと、日本とロシアの食文化についてでした。日露間の友好関係を深めるためには、お互いの国のことを学べる機会を作るべき、との意見や、SNS での交流を促す、などの意見がでました。日本とロシアの食文化では、日本発祥やロシア発祥とされている料理のなかにも、実は中国発祥だったり、ウクライナ発祥の料理があったりする、という話がでて、興味深かったです。原宿散策では、明治神宮を参拝したあと、ロシア人たちが浴衣に着替え、一緒に神宮外苑の花火を見ました。ロシア人は、花火を見
てすごく興奮していました。これらの経験を通して、普段気づかないような、日本の面白さにも気づけた気がしました。

蓮田柚香

私は初日の歓迎会と 5 日目のお台場散策を企画しました。5 日目は日本科学未来館やダイバーシティを回り、ASIMO のショーを観たり初めて目にすセミにはしゃいだりしていました。

とても楽しい時間を過ごしましたが、中でも最も印象に残っているのは、夜に代々木上原の銭湯に行ったことです。ロシア人が刺青をしているため大江戸温泉物語の予定を変更してのことだったのですが、日本人女子は私ひとりしかおらず、ロシア語も得意ではないうえに観光であえて連れて行くような場所ではないので、ロシア人 3 人と入るのは非常に緊張しました。しかし、3 人は日本語が上手だったので積極的に日本語で話しかけたことで会話も弾み、地元のおばさんともお話ししました。熱い風呂と水風呂に交互に首までどっぷり浸かるのを繰り返している様子を見て私も真似しようとしたのですが無理でした…。風呂あがりにコーヒ牛乳を勧めましたが誰も選ばなかったことはさておき、楽しんでくれたようで良かったです。ロシア語の勉強により力を入れてこれからもこのような貴重な交流の場を大切にしていきたいです。

藤江教貴

8月5日の鎌倉観光の企画をしました。当日は物凄く暑い日でした。そのせいか行く予定だった江ノ島などには行けず、鶴岡八幡宮と長谷の大仏にしか行けないような状況でした。それでも予定外のこと、ロシア人の方々に楽しんでいただけたのが嬉しかったです。まず、ジブリの専門店であるどんぐり共和国に行ったことです。ロシア人の女性達がどうしても行きたいとのことだったので、その要求を認めました。結果、かなり堪能してくれたみたいで本当に嬉しそうでした。もう一つは大仏の後に由比ヶ浜でちょっとした海水浴を行ったことです。僕は鎌倉の海を見せたかったのですが、そのことを言うと「行ってみたい」ということなので、結局連れて行くことになりました。海岸に着くと、「more!!」とロシア人達は歓声をあげて、大興奮。その勢いのまま彼ら(十一部の日本人)は服を脱いで海に向かっていく。その光景はなかなかシュールでしたが、楽しそうな姿を見て、一日中海水浴とかでも良かったかなとも思ってしまいました。この経験を通じて気付いたことは、大事なことは楽しんで貰うこと、そしてその喜びは連鎖するということでした。

鶴見百英

この度、私は訪日の企画に 4 日間参加させていただきました。ロシア人の同年代の方々とともに過ごせる貴重な体験でした。

ですが、私はあまり積極的にロシア人と話せず、このせつかくの機会を少し無駄に過ごしてしまったように思えます。この訪日企画はロシア語の実践の大きなチャンスでした。学習のことを差し引いても、この企画ではロシア人を日本に招き共に行動できるという貴重な体験の機会でした。

このように、たくさんの反省点があったのですが、同時に、ロシア語の学習にたいするモチベーションもあがりました。特に衝撃を受けたのが、ロシア人の方々が日本語をとっても流暢

に話していたことです。彼らにとっての母国語のロシア語で次は会話したい、と強く思いました。

訪日訪露企画には来年も参加したいと思っています。二年生になって主体になる来年こそは、更にロシア語を勉強し、積極的になって、訪日訪露をもっと自分にとって身のあるものにしたいです。

尻無濱優香

日露に入って初めての訪日企画に参加して、始まる前は訪日がどのようなものなのか想像もつきませんでした。とても楽しかったです。私は訪日初日の企画をさせていただくことになったのですが、初日の企画をするメンバーが全員 1 年生だったので初めは何をすれば良いのか分からず困っていると 2 年生の先輩方が助けて下さって本当に助かりました。一緒に企画をした人の中には初対面の人もいましたが、今ではすっかり仲良くなりました。訪日に参加した中で、ロシア語を習い始めて 4 ヶ月の私にはロシア語を理解することや話すことは難しく、ロシア人の方々が日本語を話して下さったり、日本人の先輩方が通訳して下さいたりしてコミュニケーションがとれるという感じでした。少し悔しく思いましたが、通訳をして下さった先輩方の姿に憧れ、十分に言葉が通じなくてもたくさん仲良くして下さいロシアの方々をもっと好きになり、来年の訪日には必ず参加して今度はもっとたくさん話したいとロシア語の学習意欲を向上させられました。

有馬隼人

私は今回の訪日に企画部のメンバーとして参加しました。訪日では、企画部が 3 人程度のグループになり、それぞれが担当する日のスケジュールを計画していました。私たちのグループが担当した日では、午前中のディスカッションの後、渋谷散策をすることになりました。

私はは地方出身で、渋谷にもあまり詳しくなかったので、計画する段階で、同じグループの人達に頼ってしまう面が多々あったと思います。また、当日も急な予定変更や、ハプニングなどでスケジュール通りに事が進まず、とても大変でした。しかし、訪日を通して日本に来てくださったロシアの方々だけでなく、日露学生交流会の人達ともたくさん話をして、交流を深めることもできました。

自分にとって初めての訪日企画でしたが、今回学んだこと、反省したことを活かして来年の訪日をより良いものにしたいと思います。

弓取奨平

今回の訪日企画では一日しか参加できなかつたため、あまり多くロシア人と接することができませんでした。しかし、その一日の中で、自分たちと同じくらいの年のロシア人はどのようなことに感心がありどのようなものを欲しがるといことがわかり、日本をどのように見ているのかがわかってよかつたです。そのなかでも特に日本の雑貨やアニメが人気があるようで参加した最終日の秋葉原散策でロシア人が楽しそうにしてるのを見て、授業とかでは学べない今のロシア人の若者の流行とかを知れてよかつたです。

ロシア語をもっとできるようになればもっとコミュニケーションをとることができると痛感したので、今後も勉強をがんばり、ある程度コミュニケーションをとれるようになればよりよい交流ができると思ひ今後の勉強へのよいモチベーションとなりました。

訪日企画を来年行う場合は自分達を中心になると思ひるので、今回このように先輩方がいろいろ考へて大成功に終わったこの企画を来年も大成功に終われるようにしたいと思ひました。

石川里奈

訪日の企画には2日間しか参加する事ができませんでしたが、とても良い経験になりました。特に印象的だったのはディスカッションです。日露関係をより良いものにするために、普段は、企業や政府が何をすべきか、ということについて考へていたので、自分たちがそのために何が出来るか、という視点で話し合つたのは新鮮でした。また、日本とロシアの食文化についてのディスカッションでは、ロシアにある日本食レストランでは、寿司が大体は巻き寿司であり、生の魚は出さないことや、ロシアの学生が、時間がないときにどんな食事をとるかなど、様々なことについて知ることができました。

カラオケでは、ロシア人の方が、ジブリの歌を歌つたり、皆でカチューシャとトロイカを歌つたりと、とても楽しい時間を過ごせました。最後に、ロシアから訪日してきた人の多くが、日本語をととても上手に話してて、自分もロシア語の勉強を頑張らねば、と刺激を受けました。

溝口莉衣奈

今回は我が家でも初めてのホームステイ受け入れをしました。去年私がノヴォシビルスクにいった時にお世話になったカーチャを受け入れるということで、ずっと楽しみに待っていました。

カーチャは本当に優しくてあたたかい人であったため、すぐに私の家族と仲良くなりました。日本という慣れない環境であったにも関わらず、カーチャいつも「楽しい」といつてくれたのが嬉しかったし、感動しました。都内散策をしていても、日本の文化や芸術に興味をもって大好きでいてくれることを感じうれしく思ひました。日本の魅力を学ぶきつ

けになったと同時に、ロシアのことをもっと好きになるきっかけにもなりました。都内散策ではさまざまなハプニングがあり大忙しでしたが、充実していて素敵な時間でした。

思い返してみると様々な後悔が残りますが、来年、再来年をさらに良い訪日にするきっかけとしたいと思います。

最後に、今回かかわったすべての人に感謝したいと思います。ありがとうございました。

Roman Sotonikov

All the time in Japan, I really enjoyed it. I was surprised by the culture and sights of Tokyo: ancient temples, interesting customs, wonderful Japanese cuisine, cultural people and a highly developed infrastructure of the city. All the host members were wonderful, sociable and good friends.

They help me in everything and told everyone that it was interesting for me.

I was in Japan for the first time, and for me it is a valuable experience exchange of culture between the two countries. I always found friends from another country.

日本にいた全ての時間、私はそれを本当に楽しむことができました。私は東京の文化と風景に驚かされました。それは例えば伝統的な寺院であり、興味深い文化であり、素晴らしい日本料理であり、文化的な人々そして高度に発展したインフラなどです。受け入れてくれた人々はみんな素敵で、社交的で良い友達でした。

彼らは全てにおいて私を助けてくれ、彼らの話す全てのことが私には興味深かったです。

私ははじめて日本に来ましたが、これは私にとって二つの国の間の貴重な文化交流体験でした。私は毎日のようにこの外国で友達を作ることができました。

Ekaterina Maksimova

日本で過ごした10日はとっても面白くて新しい経験のある日でした。日本の家族と住んで少しだけでも日本人の生活をわかるようになりました。友達と会えて、そして新しい友達が出来て嬉しいです。色々な場所を見学して、日本料理を食べて、日本人と遊んだり話したりして楽しかったです。やったことがないことがいっぱいありました。一生忘れられない思い出が残って本当に感謝しています。また、この旅行は日本語能力を改善する良い機会でした。

Natalya Rychkova

去年訪ロの日ロ交換プログラムに参加させていただいて、今年訪日の交換プログラムも参加させていただきました。

一年中、12年前に訪日した私はこの十日間をお楽しみにしました。久しぶりに日本の料理を味見させていただいて、日本の伝統的な文化を見学させていただいて、現代の日本人の若者文化を教えていただいた私は言葉で現れないほど嬉しいです。

初めて鎌倉の大仏が見学できたし、忍者や銭湯など体験できたし、東京タワーも見学できて本当に嬉しいです。その上、ホスト先の浅野シンのおかげで品川水族館、スカイツリーと新宿御苑を楽しみました。この十日間が忙しかったけれど、ロシア人は皆子供のように幸せでした。

でも何より一番素敵なことになったのは去年訪ロしました皆さんに再会できて、また新しい友達が見つけたことです。

ホスト先の浅野シンと他の皆さんのおかげでこんなに素晴らしい訪日になりました。この短かった十日間は一生忘れられない思い出になりました。それぞれのホスト先の方々に心から感謝の意を表します。誠にお世話になりました。

Ekaterina Phzhidaeva

I am truly delighted that I had the chance to participate in this year Nichiro's cultural exchange program. This travel has brought unforgettable impressions and great cross-cultural experience. I am also very happy to have known all those nice people who spent those 10 days with us. Everybody was always cooperative and helpful, talkative and friendly. It was pleasant to know that so many people are interested in Russian culture and language.

Of course, I would also like to say again special thanks and best words of gratitude to our hosts and their families, who were caring about us 24/7, were always able to help, and also took into considerations our wishes .

Even if depending on various circumstances, the timing was not always as planned, the program was very eventful and interesting, every day was full of fun and entertaining activities, and we were able to visit different places, to get various experiences, take part in cultural events and try delicious food. Every day I had chance to learn and explore something new, to get acquaintance with modern and traditional Japanese culture and way of life. Undoubtedly, all those experiences are precious.

Besides I think, that discussions we held with students were as well productive. Both Japanese and Russian parities prepared interesting speeches and following brainstorming and sharing opinions were not only entertaining but also useful, practical and educating.

Moreover, there was always great chance to practice speaking skills, opportunity for Russian parties to practice Japanese, as well as for Japanese students to practice Russian.

I would like to believe that both Russian and Japanese participants have been able to share and obtain unique mutual cultural exchange experiences and new impressions.

私は今年、日露文化交流プログラムに参加する機会を得ることができて本当に嬉しかったです。この旅は忘れられない印象と大変な国際交流の経験をもたらしてくれました。私はまた燈日間をともに過ごした素晴らしい人達と知り合いとても幸せです。みんないつでも助けてくれて、おしゃべりしてくれて、フレンドリーでした。ロシア文化とロシア語に興味をもっているたくさんの人達と知り合えたのも嬉しいことでした。

もちろん 24 時間 7 日間常にお世話をしてくれ、助けてくれて、希望を聞いてくれたホストファミリーにもう一度、ありがとうございますと一番の感謝の言葉を述べたいです。

様々な事情のためにいつも計画通りとはいかなかったけど、このプログラムはとても面白く、毎日楽しく愉快的な活動で一杯で、また様々な異なる場所を訪ね、様々な経験を得て、文化体験にも参加して、おいしいものも食べられました。毎日のように新しい何かを学び、得ることで、現代と伝統的な日本文化と生活様式を知ることができました。間違えなくこれらの体験は貴重なものです。

それから、学生たちと行ったディスカッションは大変創造的なものだったと思います。日本とロシアの双方の学生が興味深いスピーチを用意し、つづく意見の出し合いと共有は愉快だけでなく有意義であり実地的であり教育的なものでした。

さらに常に日本人学生がロシア語の、またロシア人が日本語の会話力を鍛える機会がありました。

私はロシアと日本双方の参加者が相互の文化交流経験と新鮮な印象を共有し維持していきけると信じています。

Tantiana Borduleva

東京にいた時はすごく楽しかったです。私は二人の生活を見られました。最初に、家族の生活を見られました。お母さんとお父さんと妹さんと一緒の生活です。大きい家の生活です。その生活はとても面白かったです。私は家族の人たちとご両親の友達や同僚と挨拶することができました。色々なテーマについて話すことができました。たまに、少し難しかったけど、これは経験や勉強のためいいと思っています。

次に、私は学生の家に泊まりました。それは面白かったです。その人は別の町から来たから、東京でアパートを借りています。そこで私はすごく違う生活を見られました。そこでその人と私たちの友達と一緒に泊まることができました。それはとても楽しくて嬉しかったです。

皆で散歩をしたときに色々な所へ行けました。そこは前に知らなかったし見なかった物や事がたくさんありました。長い時間で欲しい所へ行ったことがありました。そして、私たちは海で泳ぐことができました。それは一番楽しいことでした。外はとても暑かったです。でも、暑くても、旅はいつも楽しかったです。

今回の旅行は私にとっていい経験となりました。日本の学生たちはすばらしかったです。

第二部 第18回関東本部主催訪口企画

第一章 企画概要

企画概要

企画名 第28回日本ロシア学生交流企画

主催 日本ロシア学生交流会

共催 リャザン Нитиро

助成 平和中島財団

実施期間 2015年8月13日～8月23日

実施場所 ロシア（リャザン）

本会会員参加人数 22名

主な企画内容

[ホームステイ]

訪ロ企画の間、私たち日本人メンバーはロシア人メンバーの家庭にホームステイをした。実際にロシア人の家庭で生活を共にすることで、仲が深まっただけでなくロシアの生活をじかに体験することができる良い機会となった。今回、私たちを受け入れて下さったロシア人メンバーとその家族に心から感謝申し上げたい。

[ディスカッション]

ディスカッションでは「日本とロシアのまんがについて」、「日本人とロシア人の死についての考え方について」をテーマとし、お互いに意見を出し合った。それぞれが違ったバックグラウンドを持つなか、意見を出し合うことでお互いを理解することができる有意義な時間となった。

[都市散策]

今回、訪れたノヴォシビルスクでは主にメトロやバスを利用し、博物館や大聖堂、動物園などを観光した。日本人メンバーの多くが初めてのロシアという人も多く、見るものすべてに目を輝かせていたのが印象的だった。

[交流企画]

今回の企画はウェルカムパーティーから始まり、様々な企画をしてくださった。初めは緊張の色もうかがえたが、次第に打ち解けていったように見受けられた。また、それぞれの学生が学んでいる言語を使ってコミュニケーションを取ろうとしている姿も印象的だった。今後もこのような企画が続いていき、両国の交流が深まっていくことを期待する。

[報告書の発行]

日本ロシア学生交流会主催の企画でロシアを訪れ、様々な企画を通して交流をすることでそれぞれが新しく発見したこと、感じたことをまとめることを目的とし本報告書を作成した。本報告書から当会の活動における日本とロシアの学生による交流の意義を理解していただけると幸いである。

プログラム日程

8月13日(木)～8月23日(日)

月日	時間	イベント
8月13日(木)	14:45 17:00	モスクワ、ドモドドヴォ空港到着 リャザン到着、各自ホームステイ先へ
14日(金)	14:30 18:00	リャザン、リュウミンスキー池集合。散策 ウェルカムパーティー
15日(土)	12:00～ 14:00 18:00頃	リャザン、クレムリン周辺散策。資料館など ロシアン寿司屋で昼食 公園でアスレチック
16日(日)		ファミリーデー
17日(月)	11:00 16:00 18:00	コンスタンティノヴォ到着 エセーニンの生家へ オカ川周辺で解散
18日(火)	07:00頃 11:00頃 18:00頃 20:30	リャザンスキー駅集合。モスクワへ モスクワ到着。以後散策 ウォッカ博物館、赤 の広場、クレムリンなどを観光 モスクワを出発、リャザンへ帰る リャザン到着。解散
19日(水)	13:00 15:30	リャザン国立大学でディスカッション ロマンさんの別荘で昼食
20日(木)	7:00 9:00 10:30 13:00 17:00頃	リャザンスキー駅集合、コロムナへ コロムナ到着 マシュマロを作る工場兼お土産屋へ コロムナのクレムリンへ 散策 コロムナを出発 リャザンへ帰る
21日(金)	09:00 11:00 14:00	パン工場へ 牧場見学 午後は各自お土産を買いに
22日(土)	12:00 18:00 23:30	ファミリーごとに別行動。お土産を買うなど アリョーナ邸到着 フェアウェルパーティー 解散

23 日(日)	11:00	ロシア人たちとお別れ
	14:00	モスクワ ドモデドヴォ空港到着
	16:55	出国 日本へ

参加者一覧

名前	大学	学年
荻原崇之	上智大学	2年
石田茂年	上智大学	2年
横江智哉	東京大学	2年
小須田祐実	東京大学	2年
矢野祐佳	東京大学	2年
中山義裕	東京大学	1年
楠秀大	東京大学	1年
小林野愛	上智大学	1年

名前	大学	受け入れ日本人
Tatyana Dashkova	リヤザン国立大学	荻原崇之
Aleksei Gasko	リヤザン国立大学	横江智哉
Alena Pakhomova	リヤザン国立大学(卒業)	石田茂年
Anastasia Goryacheva	リヤザン国立大学	小須田祐実
Angelina Umarova	リヤザン国立工科大学	矢野祐佳
Viktoriya Kirilina	リヤザン国立大学	小林野愛
Roman Sinev	リヤザン国立工科大学	中山義裕
Lena Kolobanova	リヤザン国立大学	楠秀大

会計報告

(文責：勝又菜摘)
2015年8月13日～23日

〈収入〉

項目	内訳(単価)	人数	金額
自己負担金	¥ 166,380	4	¥ 665,520
自己負担金	¥ 160,380	2	¥ 320,760
自己負担金	¥ 159,380	1	¥ 159,380
自己負担金	¥ 159,880	1	¥ 159,880
助成金	¥ 15,000	8	¥ 120,000
日口口座	¥ 10,000	8	¥ 80,000
		合計	¥ 1,505,540

〈支出〉

項目	内訳(単価)	人数	金額
航空券代	¥ 177,380	8	¥ 1,419,040
ビザ発行手数料	¥ 14,000	4	¥ 56,000
ビザ発行手数料	¥ 8,000	2	¥ 16,000
ビザ発行手数料	¥ 7,000	1	¥ 7,000
ビザ発行手数料	¥ 7,500	1	¥ 7,500
		合計	¥ 1,505,540

第二章 滞在記録

8月13日(木)

(文責：中山義裕)

訪ロ1日目は言ってしまうえばステイ先への移動だけの日だったが、それでも空港から一歩出た瞬間に、異国の雰囲気が感じられた。

まず、空が広い。見渡せばほとんど地平線が見渡せそうな平坦な地面に低い建物と森があるのみで、その上に抜けるような空が広がる。リャザンでも4階建以上の建物は、ここ数年に建てられた物以外ではあまり見かけず、この広い空は滞在を通して私に開放感を与えてくれた。日差しも日本よりもかなり強く、日向と日陰の温度差が大きい。10℃を切る朝も日向を歩くようすると、半袖でもそれほど寒くなかった。また私は大丈夫だったが、サングラスがないと辛い日本人も多いそうである。道行く人々の体格が日本より一回り大きいことも、街の景観を異なるものにしていて。男性の服装は日本よりもシンプル、というかファッションに無頓着な人も多かったが、それでも体格と彫りの深い顔立ちでかっこよく見えてしまう人が多いのには感心してしまった。

ロシアは都市部以外では道路が未舗装であったり、穴が空いていても修繕してなかったりすることが多いらしい。そんなでこぼこの道を2、3時間ほど走り、途中いくつかの町を通過するとリャザンにたどり着いた。夕方頃に到着し、その日はそのまま解散となった。

私をステイさせてくれたロマンさんはかなりの日本通であり、到着日には富山米と日本酒での歓迎を受けた。ロマンさんと過ごした10日間は日々新鮮な驚きにあふれていたが、中でもアイスクリームにハチミツをかけること…ではなく、毎日市場で食糧品を買うことが興味深かった。ソ連時代と比べると少なくなったものの、今でも自宅で野菜や家畜を育てている家が多いらしい。味も値段も、スーパーより良いそう。特に1kg300円の桃は日本の贈答用の桃とほぼ遜色のない味で、感動した私は毎日食べていた。

特に観光などはしなかったが、日常の色んなところにも異国情緒というのは表れるのだと言うことを実感できた。ロシアへ行った際はそんなところへ目を向けてみても面白いかと思う。

8月14日(金)

(文責：横江智哉)

この日は15時にリャザン無線工科大学前の公園に集合し、周辺を散策したのちにウェルカムパーティーとのことだったので、それまではホストファミリーのアレクセイと一

緒にリャザン市内を軽く散策することにした。朝から戦勝記念広場、レーニン広場、森林公園などを散歩した。今年是对独戦争戦勝70周年ということもあり、街中の至る所に「戦勝70周年」のリボンや文言が見られた。森林公園はたいへん広大で、しかも人が歩くための道や、車道の高架けた以外はあまり人の手が加えられていないようだった。森林公園の外れに湖があり、そこで泳ぐ人も見られた。

こうして市内を散策した後いったん家に帰り、しばらく休んでから例の集合場所へと向かった。無線工科大周辺の公園にも池があって水鳥が多く生息しており、我々はエサ（白パン）を与えて遊んでいた。その後林の中に設けられたアスレチック「ジャングルキッズ」（その時の私の「面白そう」という一言で、翌日体験する羽目になってしまう…）などを散策したのち、ウェルカムパーティーの会場であるアンチカフェ「タイムアウト」へと向かった。アンチカフェというのは、飲食物を持ち込んで、パーティーを開くための場所を提供するものであり、普通のカフェとは違い、食べ物は出ない。そこでロシア人が持ってきたものは、ピロークという甘いケーキやガイドを務めてくださっているロマンさん手作りのライスプリンなどであった。つまり、甘いものしかないのである！さらに私は甘い練乳の缶詰を丸々一缶開ける羽目になり、これが想像を絶する甘さなのである。もはや砂糖に牛乳を混ぜたものといった方が正しい。この後、しばらく私は甘いものを拒絶することとなる。こんなハプニングがありながらも、日本人とロシア人はそれぞれ思い思いに交流し、パーティーは夜遅くまで続いた。

8月15日(土)

(文責：中山義裕)

訪口3日目は朝にウスペンスキー大聖堂、昼食は寿司カフェ、そして夜にはアスレチック公園とイベントが目白押しであった。

大聖堂では装飾の美しさはもちろん素晴らしかったが、私には途中で見かけた新婚さんたちが印象に残った。私たちがいた数時間の間にも5組程とすれ違ったが、ロシア人の話によるとここでは写真撮影をするだけで、式やその後のパーティはそれぞれ別の場所でやる人が多いようだ。後に別の場所で見かけたパーティ会場では派手な音楽の中で踊っており、2日ほどそんなお祭り騒ぎを続けるのは普通らしい。他にも白馬に乗ったり白い鳩の群れを放ったりと、日本とはひと味違う気合いの入れ方であった。

昼食は寿司カフェで食べたが、リャザンでは寿司というと巻き寿司がメジャーだそうだ。内陸にあり生魚が手には入りにくいことが関係しているのかも知れない。「ヤキ ゲイシヤマキ」「ヤキ ヤクザマキ」など、メニュー名からは中身が想像できず若干不安だったものの、味は問題なく美味しかった。ロシアでファストフードとしての地位を確立できたのもうなずける。

そして何より強烈だったのはアスレチック公園であるが、字数の都合上書き切れないの

で、「突破に2時間」「地上10メートル」「ロシアだから命綱は信用しないでね♪」「女子が泣き出す」のキーワードからその惨状を想像して頂きたい。日本なら確実に保護者からクレームが入る難易度設定が許されるのは、やはりロシアだからであろう。あれを笑いながら遊びこなすロシアンキッズには脱帽である。

以上のように、この日は地元民の視点から濃いロシアを体験することができた。私がこれ以降、何が起ころうともあまり驚かずに受け入れることが出来たのはこの日の経験が大きい。スムーズな文化受容のためにも、リャザンを訪れた際には是非アスレチックに挑戦してみてもどうだろうか。

8月16日(日)

(文責：横江智哉)

この日はファミリーデーであり、各ホストファミリーごとに思い思いの時間を過ごした。私とアレクセイは、ロマンさんとその父、そこにステイしている中山君と一緒に行動していた。朝から我々はリャザン郊外の森に入り、キノコ狩りや果実の収穫を楽しんだ。この広大な森は全く人の手が加えられておらず、一度迷い込むと二度と出られないように思われた。しかし、さすがにロシア人たちはこの森に慣れており、キノコの場所、自生している果実が食べられるか否か、車をどこに停めたかなどを完全に把握しており、私と中山君は彼らからはぐれることの無いように一生懸命ついていった。また、森の中で本物のピストルと銃弾で、その辺に落ちていたビール瓶や缶を標的にして射撃も行った(アレクセイの趣味は射撃で、このピストルと弾はアレクセイが持ってきたのである)。本物の銃声と発砲時の衝撃に、私は少し恐れをなした。

こうして2時間足らず森の中を散策した後、我々はその森の近くの修道院および泉を訪ねた。そこは広大なサナトリウムになっており、泉のところには十字架が立っていた。この泉は一年中水温が変わらず、水を汲みに来る人がたくさんいた。修道院と泉の間はかなり離れており、2〜30分ほど歩かなければならないが、その路にもさまざまな植物が自生しており、我々の目を楽しませてくれた。

その後、路上のスイカの屋台(ロシアではよく見られる)で大きな俵型のスイカを購入し、河沿いの土手で食べた。あまりにも量が多く、男5人でもなかなか食べきれないほどであった。8月中旬だというのに日が雲に隠れると肌寒い。そんな中ロシア人たちは突然おもむろに服を脱ぎ始め、全裸で川を泳ぎ始めた。そしてしばらく川で泳いだ後、全身びしょ濡れなのにも気を留めず、濡れたまま服を着た。この人たちは正真正銘の阿呆なんではないか、風邪をひくのではないか、そう思った瞬間だった。彼らは我々日本人2人にも泳ぐように勧めたが、当然のように固辞した。

家に帰ってからは数日後のリャザン国立大でのディスカッション用の原稿をロシア語で用意し、アレクセイにチェックしてもらうなどして過ごした。

8月17日(月)

(文責：小須田祐実)

朝、まず修道院へと向かった。女性は皆スカーフをかぶり、長いスカートを着用して修道院の敷地に入った。修道士の方が敷地内を案内してくれた。伝えられた話によると、この修道院はモンゴル人が攻めてきた際に、モンゴル人が神秘的な夢を見たことによって破壊を免れたのだという。ロシア革命が起こると正教は弾圧されたが、ソ連が崩壊した後、一般市民の力によって修道院は再興されたそうだ。一般信徒が祈る建物には、壁や天井に聖人のイコンが描かれていた。また、修道士が祈る場所にも特別に案内していただいた。とても貴重な経験だった。入り口から伸びる廊下には、壁一面に「最後の審判」の絵が描かれていた。その後、昔の修道士たちの骨が安置されている倉に案内された。棚一面に並ぶ頭蓋骨を見たときは驚いてしまった。近年発見されたもので、身元がわからないためそのままの状態に棚に置いているのだそうだ。

修道院の中の食堂で昼食をとった後、近くにある泉へと向かった。泉の水はとても冷たく、年間を通して4℃前後に保たれているのだそうだ。人々はその泉に入ることによって身を清める。メンバーのうち、何人かの男子がアレクセイさんとともに泉に入った。とても寒そうであった。ちなみに、冬は気温が氷点下になり、泉の水の温度が気温よりも高くなるため、泉に入る人は夏より冬のほうが多いのだとか。ロシアの冬は想像を絶する寒さのようだ。

次に、コンスタンチノポにある、詩人・エセーニンの生家と彼が通った学校を見学した。生家は典型的な農家の木造の家だった。ペチカが今も機能していて、壁が暖かった。実際に機能しているペチカを見るのは初めてだったので、感動した。エセーニンの銅像の前で、皆で記念撮影をした。銅像からも、美青年だったというエセーニンの面影をしのぶことができた。ロマンさんが教えてくださったのだが、エセーニンは不良少年だったそうだ。だが、先生が彼の書いた詩を褒めてくれたことがきっかけで、才能が開花したのだとか。最後に、「ロシア」を感じさせる広大な野原と川を一望できる丘で記念撮影をした。日本では考えられないほど寒かった一日だったが、様々な体験ができた。

8月18日(火)

(文責：矢野祐佳)

午前8時まえの電車でリュザンを発ち、モスクワへ向かった。車窓からは教会や住宅、店といった街並みや針葉樹林などが見え、日本とは違う景色に心が躍る。モスクワには2時間半程度で到着。1日目は空港を利用するにとどまったロシアの首都・モスクワに足を踏み入れたと思うと、なぜか背筋が伸びた。そこから地下鉄に乗り換え。駅の天井や柱に装飾が施し

でありとても綺麗だった。地下鉄は、かつては核シェルターとしての側面もあったため地下深くを走っている。下を見ると足がすくむほど長く急なエスカレーターを降りるのは新鮮な経験だった。地下鉄を降り「ウォッカ歴史博物館」へ。ウォッカが中世に生まれてから現在の形になるまでの過程を学んだ。しばしの自由時間となり、近くのおみやげ屋さんでおみやげを購入した。大量のマトリョーシカが店頭に並んでいるなど、モスクワのおみやげ屋さんには品揃えが豊富だった。日本人におみやげを売るうちに日本語を覚えてしまった、と話す店員さんもいて驚いた。その後は「赤の広場」「クレムリン」「聖ワシリイ大聖堂」「レーニン廟」と、有名な観光地を見て回った。往来する人の中には観光客が目立つ。聖ワシリイ大聖堂の丸屋根に見とれていると、クレムリンの衛兵交代が始まった。厳格な面持ちで交代を行う衛兵。長い間憧れてきた、本の中の世界が現前していることに並々ならぬ感動を覚えた。長居はできず、再び地下鉄、電車と乗り継いでリャザンへと帰った。モスクワを直に見ることができ嬉しいと思うと同時に、1日では見切ることができなかつたとも思った。いつかもう一度モスクワに行きたいな、と思わせてもらえた1日だった。

8月19日(水)

(文責：楠秀大)

この日はディスカッションをする日だった。早起きしてモスクワへ行った前日とは対照的に、朝10時ごろに起きた。遅めの朝食をとった後、マルシュルートカでリャザン大学へと向かった。大学に着くと、メンバーの他にリャザン大学日本語学科の教員の方もいた。夏季休業中だったためか、大学構内では工事が行われており、僕たち以外にほとんど人はいなかった。ディスカッションは日本語学科の部屋で行った。部屋には日本語の本や日本の小説がたくさんあった。また、ホワイトボードにはとてもきれいな錦鯉の絵が描かれていた。皆が楕円型のテーブルを囲むように座ると、早速ディスカッションが始まった。ディスカッションのテーマは「大都市における問題」だった。各メンバーがテーマに関連した発表を順に行い、そのあと質問をしたりして議論するという形式だった。ディスカッションは、テーマの堅さに反して終始気軽な雰囲気が進められた。ロシア人メンバーは日本語ないし英語、日本人メンバーはロシア語ないし英語で発表をした。それぞれ自分の住む町における問題を念頭に置いての発表だったが、人口光の問題や職・住の不足の問題、環境問題など、共通して挙げられた問題もあって興味深かった。他にも、ロシア人メンバーたちが「怠け者が多い」ことや「サブカルチャーの需要が進んでいない」ことを問題として挙げていて面白かった。また、日本人メンバーの1人はロシア語で書いた自作の詩を披露していた。意外にも多くのロシア人メンバーたちに受けていた。

ディスカッションが終わると、皆でロシア人メンバーの1人の家に移動してパーティーをした。家の敷地内には畑や果物の木があり、自由にとって食べてよいと言われた。手作りだという離れに行くと、テーブルの上にはたくさんのお菓子があった。その後は、お菓子を食

べたり紅茶を飲んだりしながら話したりして楽しく過ごした。途中、ロシア人メンバーたちによる合気道の演武もあった。僕は、家にいた男の子と一緒にサッカーやバレーボールをして遊んだ。拙いながらロシア語でも少し話すことができて嬉しかった。

8月20日(木)

(文責：小林野愛)

モスクワに行ったときと同様、朝早くに集合し、リャザンエクスプレスに一時間半ほど乗ってコロムナという町に行きました。30分以上歩き、着いたのはロシア人がこよなく愛するりんごのお菓子「パスティラ」の博物館でした。そこではどのようにパスティラを作るのか、演劇で分かりやすく説明をしてくれました。最後は日本人だけでなく、ロシア人メンバーもたくさんのパスティラを買っていて、ロシア人のパスティラ人気を目の当たりにしました。

各家庭からもってきた昼食をとり終わった後、クレムリンに行きました。民家に囲まれたコロムナのクレムリンは観光地というより、ひっそりとたたずんでいて雰囲気よかったです。また、現在のロシア語の土台を作ったキリルとメフォージーの銅像がありました。個人的には大学の授業でキリル文字の由来について学んだばかりだったのでテンションが上がりました！

その後、お土産屋に寄ったり、写真を撮ったりしているうちに駅に到着し、帰りは日本という高速バスに乗って帰ることにしました。1日に数本しかリャザン行きのバスがないようでしたが、なんとか乗り込み、朝早かったこともあり私はすぐに寝てしまいました。

人の声がして起きると、どうやらバスが故障して動かなくなっているらしく、近くに駅があるから普通電車に乗り換えようということになりました。

急いで駅に向かうと、切符を買う長い列があるのにも関わらず、あと4分で電車が到着してしまうと聞きました。

全員がその電車に乗ることを諦めた時、電車は25分遅れで駅に到着するというなんともラッキーな知らせを耳にしました。こうして、予定より2時間遅れでリャザンに到着し、それぞれのステイ先に無事帰ることができました。

わたしは同じ歳の女の子の家、ビーカさんの家でホームステイをしました。家に帰ると、お母さんもお父さんも留守にされていて作り置きしてくれていた夜ご飯をビーカさんと二人で食べました。バスが壊れて大変だったこと、ロシアではよくバスが壊れることなど……楽しくお話しをしていると、部屋の中に20匹くらい蚊が飛び回っていました！！ロシアの夏は蚊が多く、ビーカさんが窓を閉め忘れてしまったことが原因でした(笑)。慌てて窓を閉め、蚊避け器をつけ二人でなんとか蚊を退治することができました。

今日はバスが壊れたり、電車が普通に遅れてたり、蚊が大量に部屋に入ってきたり“ロシアらしさ”を体感できた日でした。さらに8月20日はロシアの国民的キャラクター「チェ

ブラーシカ」の誕生日らしいのです！

なんとも慌ただしい日でしたが最高に楽しい日でした。

8月21日(金)

(文責：石田茂年)

リャザンでの滞在も終盤に差し掛かった8日目の8月21日、この日はリャザンで一番大きい地域密着型の乳製品、小麦製品を製造する会社の工場を見学しに行きました。この会社では自然素材にこだわった製品の製造、販売をしており、リャザン各地に販売所を置いています。確かに街を歩くと所々で販売所が見られました。この会社の食品を使っていない人はほとんどおらず、リャザン大学の友人曰くリャザンの人々にとってなくてはならない存在だそうです。

まず私たちはリャザンの街中にあるパンやお菓子、パスタなどを製造する工場を見学させていただきました。決して大きな工場ではなかったのですが、少ない従業員の方が機械で大量の食品を生産する現場を見ることができました。色々な説明もしていただき日本では馴染みのない材料や食品について様々なことを知ることができ、貴重な経験になりました。

次にこの工場を出て、バスで1時間ほどのところにある牧場に行きました。この牧場では先ほどの工場などで生産している食品の材料を作っており、広大な敷地に広がる麦やヒマワリの畑などをバスから見る事が出来ました。牧場の敷地内には乳製品の工場がありそこも見学させていただきました。牛乳、ヨーグルト、そしてロシア人の生活に欠かせないものだというカッテージチーズの生産現場を見学し、最後には実際に販売している製品を試食しました。添加物をほとんど使用していないナチュラルな乳製品はとても美味しく、また健康にもいいということで、地元の方に愛されている理由がよくわかりました。

牧場を後にし、先ほどの工場へ戻って従業員の方が利用する食堂で遅めの昼食をいただきました。メニューは蕎麦の実のカーシャ(肉入りのソースがけ)、サラダ、シチー、パン、コンポート、ケーキで、どれもロシアでは非常にポピュラーな食事です。味はどれも美味しく、またボリュームもあり体力を使う従業員のことをしっかり考えたメニューだと感じました。ここで本日の企画は終了となります。

ロシア(リャザン)の食品工場の見学という貴重な体験は非常に有意義なものでした。ロシアの方の食生活、健康意識なども知ることができ、良い学びとなりました。

8月22日(土)

(文責：荻原崇之)

8月22日土曜日。この日は訪口企画としては最終日、フェアウェルパーティーの日だった。他の訪口メンバーとも話していたが、とにかくこのロシアでの10日間は時間が経つのがは

やかったように感じる。正直もうフェアウェルパーティーの日だとは実感が湧かなかった。それだけ充実していたということだろう。朝の10時くらいまで寝て、食事を終え12時頃家を出た。他の日本人メンバーとそのステイ先のロシア人たちと合流し、お土産屋を二軒ほど梯子した。最後にロシアらしいお土産を買うことができるとも満足である。その後アリオーナ家に到着。そこはもう豪邸だった。広いリビングに広い庭、野菜や果物を育てるビニールハウス、プール、おまけに楽器を演奏、カラオケもできる地下室まであった。開いた口が塞がらなかった。パーティーはその地下室で行われた。アリオーナのお父さんがギターを演奏してくれた。とにかく格好良かった。分かる人には分かるが、キース・アーバンのようだった。そしてお酒（もちろんウォッカも）を飲みながらカラオケ。ロシア人は皆歌が上手だった。そして日本人メンバーも石田君は素敵な低音、横江君は素敵な高音、楠君も歌が上手で大いに場を湧かせていた。パーティーはおおいに盛り上がり本当に楽しい夜だった。そんな楽しい時間もあっという間に終わり、ターニャとタクシーで家に帰る。着いたのは夜中12時だったが、そんな遅い時間にも関わらずターニャのお母さんは起きて待っていてくれて、お茶を出してくれた。なんて優しく温かい人たちで、そしてなんて居心地の良い場所なのだと感動すると同時に、この家族とも明日でお別れだと思うと急に寂しくなった。そして夜中の1時ごろ慌てながら荷造りを済ませ、床に就いた。とても充実した一日だった。

8月23日(日)

8月23日 日曜日。とうとうロシア人たちとのお別れの日が来てしまった。空港に向かうバスに乗る前、皆それぞれステイ先のロシア人やその家族と別れを惜しんでいた。泣いている人も多くいた。ステイ先のターニャも別れを惜しんで泣いてくれた。普段泣かないのだが、これはさすがに堪えきれなかった。飛行機に乗るまでは10日間の出来事を思い返してしみりしていた。楽しいことばかりであったという間だった。もう少しリヤザンにいたいと強く思った。気分が晴れたのは、ドバイでメンバーと10日間について振り返った時だ。そこでメンバーの思い出話を聞いたり、また自分の思い出話について話すことで本当に楽しかったなという気持ちを共有でき、とても盛り上がった。そして9時間半ほどかけて成田に到着。みんな疲れていたが、無事日本についてホッとしていた。大きなトラブルもなく無事に企画を終えることができよかった。今回私は貴重な経験をたくさんさせてもらった。特にホームステイという形が大きい。10日間常に同世代のロシア人と一緒に行動する。このようなことは家族でもなかなかあることではない。常に行動を共にすることで、多くの時間悩みや考えを共有したりロシア語と日本語を互いに教え合ったりすることができた。何の利害関係もない友達との関係はなかなかできるものではないし、特に私たちのように若い世代の人たちにしかできないと思う。その意味で訪日企画は、サークルの一番の目的の交流を最高の形で実現できたと思う。最後に一緒にリヤザンに行った訪日メンバー、ホームステイを受け入れてくれたロシア人の方々、また企画に関わった全てのサークルのメンバーに感謝

したい。本当に素敵な経験をさせてくれてありがとう。



第三章 全体感想

荻原崇之

日露に入った理由が訪口企画の存在だったので、行くことが決まった時は嬉しかった。それでもロシアは初めてだったので不安もあった。しかしリャザンに着いてからは不安の気持ちの方はすぐになくなった。ステイ先のロシア人とその家族はとても温かく迎え入れてくれ、毎日の企画でもリャザンは美しい町で案内してもらった時はその度に感動があった。そして嫌でも日本語が使えない環境があるので語学学習的な刺激もあった。全てにおいて新鮮で良い経験ばかりだった。訪口について挙げだすときりがないが、個人的には人の優しさが一番だと感じた。そこに住む人々が素晴らしいからまた会いに行きたい、ずっとこの企画を続けていきたいという気持ちになるのだろう。また若いうちの同世代の交流ということも大きな魅力だと思う。この時期に何の利害関係もなく築いた関係は一生ものだ。最後にこの企画に関わった全ての人に感謝の気持ちを伝えたい。本当に貴重な経験をさせていただいた。そしてリャザンのみんなにもまた会いたい。

小須田祐実

渡航前には少し不安を抱いていましたが、滞在を振り返ってみると、楽しい思い出ばかりで本当に困ったことは一つもありませんでした。これはプログラムを支えてくれたロシア人の皆さんのおかげです。ロシア人メンバーやホストファミリーには、毎日色々な場所に連れて行ってもらい、貴重な経験ができました。

リャザンは素敵な街でした。街中には大きなショッピングモールがあり、交通手段も発達していて、頻繁にバスが来ます。一方でリャザンの中には何カ所も公園があり、ゆったりと散歩を楽しむことができました。

ホストファミリーとは、楽しい話題だけでなく、第二次世界大戦や北方領土のことなど政治的な話題になることもありました。違う国に住むのだから違う考え方を持つのは当たり前だ、というところでは互いに同意できました。日本や世界について、ロシア人の考えを実際に聞くことができ、とても興味深かったです。

コミュニケーション面では主に英語と日本語に頼ってしまったので、もう少しロシア語を勉強して、またロシアを訪れてみたいと思います。

石田茂年

2015年8月13日～23日、本年度の日ロ学生交流会訪露企画がロシアの都市リャザンで行われました。

12日夜に成田より日本を発ち、ドバイ経由でモスクワのドモジェドヴォ空港に13日に到着しました。空港を出た瞬間に身体に受ける涼しく乾燥した空気、突き刺すような日差しが早速ロシアを感じさせてくれました。その後すぐリャザンへ向かい、リャザン国立大学の学生たちと挨拶を交わした後、各々のステイ先へ向かいました。リャザンはロシアの中では少しばかり田舎ですが、美しい自然と芸術的な建造物に心が癒されました。滞在中は様々なリャザンの名所を案内していただき、その素晴らしさを存分に味わうことが出来ました。またモスクワ、コロムナといった近くの都市も観光し、リャザンとはまた違ったロシアを体験できました。何より首都モスクワは圧巻でした。

そして何よりの収穫、喜びは日々の観光、ホームステイ、ディスカッションを通したロシア人たちとの交流でした。10日間というわずかな時間ではありましたが、かけがえのない友になったと感じています。

リャザンで感じた夏草の香り、木々の緑、空と湖の青、そしてホスピタリティー満点のロシア人との付き合いを通して得たものは私にとって間違いなく大切な人生の糧となりました。この糧を今後人生の中で様々な形で活かしていくことができるよう日々邁進していきたいと思います。

矢野祐佳

今回の訪ロでロシアをさらに好きになり、実際にロシアの地に踏み入れることで多くの発見や考えを得た。ロシアの建物、自然、料理……が素晴らしかったのは言うまでもない。ロシアの人々は非常に親切だった。ホストシスター、ホストファミリーは寒い日に服を貸してくれるなど、いくら感謝しても足りないほど気配りをしてくれた。街に行くバスの中で、座っていたロシア人が突然立ち「どうぞ座って」と言ってくれた時には、他の人に席を譲ることは日本と同じなのだなあと思った。

英語があまり通じない世界、というのも新鮮だった。日本、とくに東京では「英語があればなんとかなる」と言わんばかりに街に英語表記が溢れているが、ロシアでは英語は外国語の一つでしかないようだった。このような国が世界にはたくさんあるのだ、英語だけやっついてはダメだ、まずは現在勉強しているロシア語にもっと励まなければ、と思わせてもらった。

10日間の滞在で「ロシアが好き！」という気持ちが非常に強くなった。関わってくださった方々には、伝えることができないが感謝を申し上げたい。

横江智哉

この訪露企画にあたり、私は「訪露リーダー」としてロシア側の人と連絡をとり、ビザの手続きをするなどの任に当たっていた。訪露前、ロシア側との連携がなかなか取れずに手続きが遅れそうになるなどのトラブルもあったが、こうして無事に訪露企画が終わったことに安心している。私個人としては、ステイ先のアレクセイの日本語学習歴が浅く、ステイ先では基本的にロシア語のみでコミュニケーションをとっていた。それでもどうにかアレクセイおよび彼の母親とは円滑にコミュニケーションが取れたことは幸いであった。また、全体での行動の際にも、ロシア人学生とロシア語でコミュニケーションが取れたことは私にとって大きな喜びであった。今後も自身のロシア語能力の向上に努めたい。最後になるが、この訪露企画を準備していただいたすべての方々、一緒にロシアに行った日本人メンバー諸氏、リャザンの方々、とりわけ10日間あまり私によく世話して下さったアレクセイと彼の母親に最大限の感謝を込めて、この訪露企画全体感想の結びとする。

小林野愛

運転が荒いマルシュルートカ、道沿いにたくさんあるキオスク、でこぼこの道、赤信号にすぐ変わってしまう横断歩道……。ずっとロシアに行きたかった私にとって全てが夢のような10日間でした。世界的にも有名なモスクワの赤の広場に行けたことも嬉しかったのですが、一番感動したのは金色と水色のクーポル(丸屋根)が特徴的なリャザンのクレムリンを見たことです。中に入ると聖書に出てくる聖人の絵が壁一面にたくさんあり、鳥肌がたつほど感動しました。

ホームステイでは同じ歳のビーカさんの家でお世話になりました。ビーカさんは日本語がとても上手で、日本人である私でさえも答えられない日本語の使い方の質問をしてきたり、分からない日本語があるとすぐに電子辞書で調べたり、勉強に対して非常に熱心な姿が印象的でした。

悔しかったことは、私がロシア語学科に入学してから4ヶ月間頑張ってきた成果があまり現れなかったことです。ビーカさんとお母さんの会話を聞き取ることがなんとかできたくらいで、自分の思っていることをロシア語で表現するのはなかなか難しかったです。ビーカさんが一生懸命勉強している姿を見て何度心で私も頑張ろうと思ったことか……(笑)。ということでまたロシア語の勉強を頑張ろうと思いました。

中山義裕

訪口を通して実感したことは、まず文化の差異については意外に何とかなるということである。川に入るときに全裸になるなど、何度か心理的抵抗を感じた時はあったが、ほとんどのことは思い切りで何とかなった。他の日本人も文化面で非常に困っていた人はいなかったように見受けられ、特にロシア人の甘党ぶりについていき、練乳1缶を平らげた横江

先輩には敬意を表したい。

一方で言葉については、雑談のハードルというのは相当に高いと実感した。私は今年の4月からロシア語の学習を始めたため、言語面で厳しいだろうことは予想していたが、その一方で自分なりに勉強をしてきたつもりでもあった。実際旅行会話集は1冊読み込んだし、準備時間のあったディスカッションではロシア人を感心させる程度のスピーチを書く事も出来た。しかし雑談となると全くダメであった。一番困ったのは、相手の言葉が聞き取れないことである。話すスピードが授業とは段違いであり、また一つでも知らない言葉が出てくると、その前後の言葉との切れ目も分からなくなり文章全体が理解できなくなってしまう。仮に理解できたとしても、瞬時に喋りたい内容を格変化させなければならない。自分の主張を簡潔に伝えれば良い旅行会話とは比べものにならない難しさだった。ロシア人からいくつかアドバイスを貰ったが、その中から日記をつけることと、絵本を読むことを実践していこうと思う。冬にはぜひリベンジをしに行きたい。

楠秀大

8月13日から23日の11日間、訪口企画でリャザンを訪れた。僕にとってはこれが初めてのロシア訪問であり、また久しぶりの海外渡航であったので、少なからず緊張して臨んだ。ステイ先の子と会った直後や、初日の夜ご飯の時は、まだ緊張が解けておらず少し気まずい思いもした。特に、ホストファミリーが気を遣って話しかけてくれたのに理解できなかったのはとても歯痒かった。そんな中、日本語や英語で一生懸命僕に分かるよう通訳をしてくれたロシア人には本当に感謝している。初めこそこうしたぎこちない感じではあったが、家にいた犬や猫と遊んだり、お互いの国で有名な音楽を聴かせ合ったりするうちに、徐々に仲良くなれた。ホストファミリーとも、食べ物の名前を教えてもらったり本を見せてもらったりするなど、交流を深めることができた。

滞在中はリャザンの各名所を訪れたりディスカッションをしたりして過ごした。モスクワやコロムナに日帰りで行った日もあった。11日間に渡り、密度の濃い計画を立てリャザンを案内してくれたロシア人メンバー達にはとても感謝している。同い年でありながらも上手に日本語を話せるメンバーや、期間中ずっと電子辞書を片手に新しく知った言葉を記録していたメンバーの存在は、とても良い刺激になった。もちろん、楽しい思い出もたくさん作ることができた。

今回の訪口企画を終えて、僕はロシアという国により興味を持ったし、大学でのロシア語の学習をもっと頑張ろうと思った。ロシア語学習期間僅か4か月余りの僕では話せることも大分限られていたが、それでも習ったロシア語を実際に使えたのは本当に良い経験であった。今回出会った友達と引き続き交流できたら良いと思う。

Roman Sinev

日露は2009年から参加していてもあきません。

ホームステイはとても必要なことだと思います。他国の人に非公式な交際や日常生活の体験はホームステイが一番いい方法だと思います。言語の勉強は日常の会話の経験を積むのはいい機会だと思います。他の必要なことは若者は誰かから貰ったステレオタイプのイメージじゃなくて自分で分かって事実のことの通りに未来の協力ができます。そのお蔭でもしかしたら政治や経済の国際関係も様々な問題が少なくなるでしょう。

今年の日露も皆で色々な所へ行ったり面白いことをしたりするのは楽しかったです。学生じゃなくなっても何回も参加したいし、機会があったら日露を参加し続けたいと思います。

Viktoriva Kirilina

私にとって日露は忘れられないことです。

いままでは私は日本人に会ったことがありませんでした。でもこの夏は日露のおかげで初めて会いました。とても嬉しかったです。

私達は色々な所へ行ったり、よく話したり、遊んだりしました。10日間は短かったです、私達はリャザンとモスクワでたくさんの場所を訪れました。ロシア人でも、その旅行もうすごく愉快でした。ある日イズマイロヴォのクレムリンを見にモスクワへ行きました。それ以前にそれほど多くのマトリョーシカを見たことが全然ありませんでした。とてもびっくりしました。そしてウォッカの美術館の見学はすごく面白くて、楽しかったです。ウォッカの歴史について聞いて、たくさん写真を撮りました。

私は日本の皆さんに日本語と日本について多くの面白くて、新しいことを教えてもらいました。とても良い経験でした。そして日露のおかげで親切な人に会うことができました。今は新しい友達があります。

この夏休みが一番好きでした。日本の皆さんとの時間は大切になりました。もう一度皆さんに会いたくて、一緒に話したいです。

Tatyana Dashkova

まずこの訪口企画は私にとって素晴らしいものであり、忘れられない出来事だったと言いたいと思います。今回私は初めてこのプログラムに参加して、初めて日本人の学生たちと関わりました。ですから最初私はとても緊張し、不安でした。

しかし、全ては順調にいきとても満足しています。日ロ学生交流会のおかげで、私自身非常に興味深い場所を訪れることができ、日本人だけでなくロシア人の多くの新しい友達を作ることができました。そして日本と日本語について多種多様なことを学ぶことができ、私にとって有効な勉強の場にもなりました。10日間とは短い期間でしたが、この間に私たちは多くのことを成し遂げられたと思います。リャザンでは多くの博物館、資料館や他多くの

名所を訪れることができ、私にとっても非常に有意義な旅となりました。リャザンは私の故郷ですが、この10日間でリャザンについて多くの新しいことを学ぶことができました。その内の一つにパン工場の訪問がありました。パンやクッキーがどのように作られるかを見た後、出来たてのパンを食べました。それらは貴重な経験でした。またモスクワにも行きました。ウォッカ博物館、クレムリン、イズマイロフスキー公園や赤の広場を訪れ、そこで衛兵交代式を見ることもできました。その日は寒かったのが残念でしたが、非常に面白い小旅行となりました。また別日にはコノムナに行き、そこでマシュマロ博物館という所に行きました。そこで行われたマシュマロを作るパフォーマンスは素晴らしいものでした。またコノムナのクレムリンを見て回り、そこを散歩しました。コノムナは初めてでしたが、今回で私はこの町を好きになりました。

もちろん全てが私たちのプラン通りに進んだわけではなく、時には予期していなかった出来事も起こりました。たとえばコノムナから家に帰る際、バスが急に故障し電車で帰ることになってしまいました。しかしその一方で、このハプニングにより私たちの旅がより一層面白く忘れられないものになりました。ですからこのハプニングについては残念には思っていないです。

以上振り返ってみると、私は自信を持ってこの夏休みは最高だったとすることができます。日本人、そしてロシア人の新たにできた友達には感謝で一杯です。そしていつか私たちは再会し、また今回のような楽しい時間を過ごせることを願っています。

Alena Pakhomova,

今年、大学卒業とともに私の大学生活が終わってしまいましたが、今夏、私は初めて日ロ学生交流プログラムに参加しておりました。

私は今年までホームステイという形のプログラムに参加したことないので、とても緊張しましたが、リャザンに来てくださった日本の学生がみんな積極的な人だったので、私たちはすぐ仲良くなりました。

その10日間はとても忙しかったのですが、毎日が楽しくて、素敵な思い出がたくさんできました。リャザンの名所と他の町の様々な面白い所へ行ったので、リャザン出身の私が行ったことない場所に行くことができました。幸い天気もよかったので、自然が多い所でいい景色を十分楽しめました。

その10日間は私にとって遊びだけではありませんでした。文化的な交流はもちろん、日本語の勉強もできました。私がまだ知らない日本語がたくさんあるということに気が付きました。

機会があったら、ぜひもう一度日ロ学生交流プログラムに参加したいと思います。

Angelina Umarova

ある人は時々「外国人は宇宙人と似ている」と言っています。
日露はそのことを確かめるのはいい機会だと思います。
文化の差でも日露を参加しながら11日だけの短時間に皆友達になりました。
ですから文化の差は問題じゃないと思います。
日露を参加して日本語も文化ももっとよく分かったと思います。
実は日本のことだけじゃありません。
日露の前はロシア語とロシアの文化のたくさん日常のことに注意を向けませんでした。
でも皆で色々な所へ行ったり友達に色々なことについて話したりして自分でたくさん面白いことが分かりました。日露のお蔭で必要な経験を貰いました。

Anna Razareba

私は日露学生交流会に参加するのは、もう四回目ですが、毎回、面白い人に会ったり、たくさん話したりするのが、とても楽しいです。また、毎年それは日本語と日本文化だけではなくて、ロシア語とロシア文化について新しいことを勉強するきっかけになります。今回の訪口の時に私はもちろんたくさんの新しい日本人の友達が出来ましたが、去年訪日の間に知り合った友達にも会えたから、すごく嬉しいです！私は毎日イベントに来られませんでした。リヤザンに来た皆と一緒に過ごせた日々はすごく楽しかったです。皆のロシアやロシアの生活についての意見を聞くのがとても面白かったです。ロシア人が普通気づかないこともたくさん知りました。他のすごく気に入ったことと言えば、今回の訪口の時に日本から来た皆以外、ロシアに留学にいる日露のメンバーも参加できたことです。こんな風にその訪口に違うロシアの町にいて、違う年日露に参加した人の統一が出来たと思います。リヤザンに来てくれて、本当にありがとう！皆と別れるのがすごく悲しかったです。必ずまたロシアやリヤザンに来てください！

Aleksei Gasko

2015年夏、私は初めて日本ーロシア間の学生交流プログラム「日露」に参加した。このプログラムは相互の言語と文化の学習を促進するために設立された。この特徴は親密な交流を通して言葉を学ぶことである。参加者は相手国に行き、ホームステイをして、このようにして、彼らの母語を知らない人々に囲まれる状況に絶え間なく置かれるのである。私のお客さんは東京都三鷹市からやってきた学生の横江智哉氏だった。

智哉さんはロシア語を上手に話し、ロシアの文化に強い関心をもっている。われわれはすぐに仲良くなった。彼の考え方や、明確な目的を持って我々の習慣と言葉を勉強していたことは、目的達成にむけての根気強さや不屈の精神で名高い日本の人々に対する心からの尊敬を私の中に呼び起こした。

私はこのプログラムに参加して大変良かったと言わねばならない。我々のお客さんも大変満足して滞在していった。2015年の「日露」プログラムは日本からリヤザンにやってきたお客さんについて少し書くことをも促したのである。



第28期 日本ロシア学生交流会

企画報告書

発行日 10月15日

編集 日本ロシア学生交流会

HP <http://www.nichiro.info/>

Email staff@nichiro.info

幹事長 荻原崇之